

島本町文化財調査報告書

第 28 集

広瀬遺跡発掘調査概要報告

平成 27 年 3 月

島本町教育委員会



序 文

本報告書は、原因者による宅地開発に伴って、平成24～25年度に実施した発掘調査の成果を報告するものです。

当調査地は、町内の埋蔵文化財包蔵地である「広瀬遺跡」にあたり、遺跡のほぼ中心を西国街道（旧山陽道）が走り、古くから交通の要衝として発展してきました。また、後鳥羽上皇が造営した水無瀬離宮跡を含み、町内では重要な遺跡の一つとして注目されてきたところもあります。近年の広瀬遺跡の発掘調査におきましては、水無瀬離宮の関連施設であると考えられる建物跡や中世段階の山陽道の路面が検出されています。

今回の発掘調査では、縄文時代の竪穴式住居跡や石器の工房跡を検出し、広瀬遺跡の年代を大きく遡らせるものとなりました。

最後になりましたが、調査にあたりまして、多大なご指導、ご協力を賜りました関係諸機関の皆様、また発掘調査にご理解、ご協力いただきました土地所有者の方や近隣の皆様方には紙面をおかりして、深く感謝しお礼を申し上げますとともに、本町の文化財保護行政に対し、今後とも、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年 3月

島本町教育委員会
教育長 岡本克己

例　　言

1. 本書は、平成24～25年度原因者負担金事業として、大阪府教育委員会事務局文化財保護課の指導のもと、島本町教育委員会が実施した、広瀬遺跡の発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、島本町教育委員会事務局生涯学習課嘱託職員木村友紀を担当者とし、平成25年3月4日に着手し、4月5日に終了した。島本町立歴史文化資料館整理室で引き続き整理調査及び報告書作成業務を実施し、平成27年3月31日に本書の刊行を以って完了した。
3. 調査及び整理作業にあたっては、下記の調査員及び調査補助員の参加を得た。(順不同)

【調査員】 木村 友紀 坂根 瞬

【調査補助員】 原 由美子 布施 英子

4. 本書の執筆は木村が行った。第3章第4節 出土遺物は、大野 薫氏に寄稿いただいた。
作成・編集は木村、坂根が行った。
5. 本調査に関わる資料の保管と活用及び本調査によって作成された資料などの管理は、島本町教育委員会がこれにあたる。
6. 現地作業及び整理作業においては、関係機関ならびに方々には貴重なご指導ご教示を賜った。ここに記して感謝の意を表します。(順不同・敬称略)
泉 拓良、大野 薫

凡　　例

1. 本書に用いた標高は、東京湾平均海水面 (T.P. [Tokyo Peil]) を基準とした数値である。
方位は、国土座標第IV系における座標北である。
2. 土層断面図の土色は、小山正忠・竹原秀夫編『新版標準土色帖』第12版を使用した。
3. 遺構記号については、以下の通りである。
S I : 壇穴式住居 P : ピット S K : 土坑 S X : 不明遺構
4. 本書で使用している北は、特に断りのない限りは「真北」を示す。

目 次

序文
例言
凡例
目次
挿図目次
付表
図版目次

第1章 はじめに

第1節 島本町の地理的概要	-----	1
第2節 島本町の歴史的環境	-----	1

第2章 遺跡の概要

第3章 広瀬遺跡発掘調査

第1節 調査経緯	-----	4
第2節 層位	-----	4
第3節 検出遺構	-----	8
第4節 出土遺物	-----	10
第5節 まとめ	-----	21

挿図目次

第1図	島本町内遺跡分布図 (1/10,000)	
第2図	調査地位置図 (1/5,000)	5
第3図	調査区平面図 (1/400)	6
第4図	調査区壁面断面図 (1/100)	7
第5図	S I 01平面図・断面図 (1/100)	9
第6図	S X01平面図・断面図 (1/40)	9
第7図	S I 01内検出遺構断面図 (1/40)	10
第8図	S X01出土土器実測図 1 (1/4)	11
第9図	S X01出土土器実測図 2 (1/4)	12
第10図	S X01出土石器実測図 (1/2・1/4)	14
第11図	1 地区出土石器実測図 (1/2・1/4)	16
第12図	S I 01出土土器実測図 1 (1/4)	17
第13図	S I 01出土土器実測図 2 (1/4)	18
第14図	S I 01出土石器実測図 (1/2・1/4)	20

付 表

付表 1	本報告書掲載遺跡	3
付表 2	出土土器観察表 1	22
付表 3	出土土器観察表 2	23
付表 4	出土土器観察表 3	24
付表 5	出土石器観察表 1	25
付表 6	出土石器観察表 2	26

図版目次

図版一 1 地区・2 地区・3 地区・4 地区全景

- 1 地区全景（北から）
- 2 地区全景（南から）
- 3 地区全景（東から）
- 4 地区全景（西から）

図版二 S I01完掘状況・S X01検出状況・S X01完掘状況

- S I01完掘状況（東から）
- S X01検出状況
- S X01完掘状況

図版三 1 地区西壁・2 地区西壁・3 地区南壁・4 地区北壁

- 1 地区西壁
- 2 地区西壁
- 3 地区南壁
- 4 地区北壁

図版四 出土遺物一

図版五 出土遺物二

図版六 出土遺物三

図版七 出土遺物四

図版八 出土遺物五

図版九 出土遺物六

図版十 出土遺物七

- 大量の剥片
- 結晶剥片（左 3 点） 紅簾石結晶剥片（右 1 点）
- チャート（左 2 点） ゲレーチャート（右 1 点）
- 粘板岩（搬入石材）



1. 山崎古墓
2. [府指] 有文 関大明神社本殿
3. 鈴谷瓦窯跡
4. [重文] 水無瀬神宮客殿・茶室
5. 水無瀬離宮跡
6. 桜井駿跡
- (6) [史] 桜井駿跡(楠木正成伝承地)
7. 伝侍宵小侍從墓
8. 越谷遺跡
9. 源吾山古墳群
10. 水無瀬莊跡
11. 御所池瓦窯跡
12. 桜井遺跡
13. 桜井御所跡
14. 広瀬遺跡
15. 広瀬南遺跡
16. [府指] 天 尺代のヤマモモ
17. [府指] 天 大沢のスギ
18. 山崎西遺跡
19. 神内古墳群
20. 山崎東遺跡
21. [府指] 天 若山神社「ツヅラジイ林」
22. 御所ノ平遺跡
23. 青葉遺跡
24. 広瀬溝田遺跡
25. 鈴谷遺跡
1001. 西国街道

第1図 島本町内遺跡分布図 (1/10,000)

第1章 はじめに

第1節 島本町の地理的概要

島本町は、大阪府の北東端、京都府との境に位置する面積16.78km²の町である。北は京都市西京区と長岡京市、北東は大山崎町、東南は八幡市、南は枚方市、西は高槻市に隣接する。

町の面積全体の約7割を山岳丘陵地が占め、人口約3万人の自然豊かな町で、町域の東南部で、木津川、宇治川、桂川の三川が合流して南西に流れる淀川が作り出す地形は、北側の天王山山塊と南側の生駒山地の北端となる八幡市の男山丘陵とを分ける山崎狭隘部と呼ばれる。

自然環境の面でも「大沢のスギ」や「尺代のヤマモモ」、「若山神社のツブラジイ林」が大阪府指定の天然記念物に指定されており、豊かな自然が残されている土地でもある。また水無瀬神宮の「離宮の水」は後鳥羽上皇が造営した水無瀬離宮にちなんで名づけられたと言われており、昭和60年7月に大阪府内で唯一、環境庁認定の「名水百選」に選ばれている。

第2節 島本町の歴史的環境

島本町では、国指定史跡桜井駅跡をはじめとして、多くの遺跡や文化財が周知されている。

島本町における人々の生活の始まりは旧石器時代にさかのほる。山崎西遺跡は未調査のため様相は不明であるが、サヌカイト製の国府型ナイフ形石器とチャート製の剥片数点が採取されていることから、旧石器時代の終わり頃から人々が生活し始めたと考えられる。

広瀬遺跡では、今回の発掘調査で、初めて縄文時代晩期の住居跡が検出された。また、町の西側に位置する越谷遺跡では、縄文時代後期に相当する北白川上層式1期から2期の鉢、甕が多く出土し、弥生時代の土器も出土していることから、狩猟・採集の時代から集団で稲作を始める頃へと、人々の生活が途切れることなく営まれたことが想像される。

その地より東側西国街道に近い青葉遺跡や史跡桜井駅跡周辺においても近年、弥生時代中期から後期にかけての土器が出土しており、広い範囲で古代から生活が営まれたと考えられる。

桜井地区の源吾山古墳群と高槻市にまたがる神内遺跡からは、名神高速道路建設時に古墳時代の土器や鉄器が採集され、付近に古墳や古墳時代の集落があったことを示している。

奈良時代に入ると、奈良の東大寺に瓦を供給したのではないかとされる鈴谷瓦窯が造られた。この地の南に位置する御所ノ平遺跡では鈴谷瓦窯跡で出土したものと同種の瓦が出土し、竈付の住居跡が検出されたことから、瓦工人の住居ではないかと考えられた。西国街道を中心に広がる広瀬遺跡でも集落跡の存在が確認されており、広範囲にわたって、生活の場が存在したと考えられる。また、水無瀬川の西岸部には、東大寺正倉院に残る日本最古の絵図「摂津水無瀬絵図」に描かれる奈良東大寺領の荘園「水無瀬荘」が造営された。

その後、平城京から長岡京、平安京へと遷都されていくにつれ、島本町は水・陸の交通上重

要な位置を占めるようになった。『延喜式』にある山崎駅の記述や『土佐日記』、『更級日記』などには、山崎津の賑わう様子が記載されている。平安時代初頭には桓武天皇や嵯峨天皇が頻繁に訪れ、この地は狩猟場として利用されていたようである。

『伊勢物語』には、文徳天皇の第一皇子である惟喬親王の御殿が水無瀬にあったと記載されており、広瀬遺跡で検出された平安時代前期の建物跡群は、惟喬親王の水無瀬離宮と関係が深いものであると考えられる。

『明月記』には、鎌倉時代のはじめに、後鳥羽上皇が水無瀬に離宮を造営し、その離宮に何度も行幸した様子が記されている。広瀬遺跡からは、その後鳥羽上皇の水無瀬離宮に関連すると考えられる建物跡が検出されており、西浦門前遺跡からは、明月記に記された水無瀬離宮の情景と一致するような庭園跡が検出されている。

中世以降には、『太平記』の記述で有名な史跡桜井駅跡がある。この史跡は延元元年（1336）に、足利尊氏の大軍を迎撃つため京都を発った楠木正成がここで長子の正行に遺訓を残して河内へと引き返らせた「楠公子別れの地」として広く世に知られ、現在もこの地を訪れる観光客は後を絶たない。また、時代はさかのぼるが、桜井駅跡は奈良時代の初め、京から西国に向かう道筋に設置された駅（うまや）の一つに「大原駅」が『続日本紀』に記され、これが桜井駅跡の地を指すものとも考えられている。

第2章 遺跡の概要

本書で報告を行う発掘調査の所在地は、「水無瀬離宮跡」を内包する「広瀬遺跡」にあたり、近年開発の進む町内では、比較的広い耕作地が残されている地域である。

広瀬遺跡は、広瀬地区全域にわたる大規模な遺跡である。町内の東端部を北西から南東の方向に流れる水無瀬川の右岸に位置し、遺跡のほぼ中心を西国街道が走る。

広瀬遺跡の代表的な発掘調査例としては、まず平成元年に実施した町立第一小学校のプール移転工事に伴う調査⁽¹⁾が挙げられる。この調査では、奈良時代末～平安時代初頭頃の掘立柱建物跡を検出しており、その年代と総柱建物跡であることから、水無瀬荘に関する倉庫跡ではないかと考えられている。

平成21年度に、町立第一小学校の約50m西の場所で実施した宅地造成工事に伴う調査⁽²⁾では、礎石建物跡を検出した。この礎石建物跡周辺からは、鎌倉時代初頭の青磁や白磁といった陶磁器類や瓦、建物に使用された飾り金具と考えられる金属製品が出土しており、格の高い建物が存在していたことが窺える。また、出土瓦が官営工房である栗栖野瓦窯産であることから、この礎石建物跡は、後鳥羽上皇が造営した水無瀬離宮の関連施設の可能性が高い。

平成21～22年度に大藪浄水場内で実施した調査⁽³⁾では、中近世の粘土採掘坑や中世の掘立

柱建物跡の他、石鏸や縄文時代後期の土器等が検出されている。この調査地から南西約75mに当該調査地が位置する。また、平成24～25年度にかけても、大藪浄水場内の調査⁽⁴⁾を実施しており、その際にも縄文時代後期の土器が出土している。

平成22～23年度にかけて実施した宅地造成に伴う調査⁽⁵⁾では、斜面に投棄された大量の土師器が出土した。これらの土師器の年代は、13世紀後半～14世紀前半と、後鳥羽上皇の崩御後であるが、前述の平成21年度の調査で出土した瓦と同様のものが出土している。このことから、水無瀬離宮に関係する施設が、後鳥羽上皇が隠岐に配流した後も存続しており、この地で何らかの儀式が行われたのではないかと考えられる。

平成23～24年度にかけて実施した西国街道に面する場所での店舗建設工事に伴う調査⁽⁶⁾では、旧山陽道の路面を検出した。現在の西国街道の西端より、約6m西の地点で旧山陽道の西端を検出し、3.5m以上の幅を有していることが明らかになった。調査地の敷地東端で検出したため、調査区を広げることができず、東端を発見することができなかった。正確な道路幅は知ることができないが、現在の西国街道の下に続くものと思われる。

平成24年度に実施した宅地造成に伴う調査⁽⁷⁾では、平安時代前期の掘立柱建物跡群や溝跡を検出した。溝跡の埋土内には、綠釉陶器や灰釉陶器といった奢侈品も含まれており、平安時代前期には、富裕層の邸宅が営まれた土地であることが明らかになった。

以上のように、広瀬遺跡は縄文時代から現代までと非常に長い間、生活の場として利用されてきた土地であり、検出してきた遺構の性格も多種多様である。当該調査地は、「広瀬遺跡」内でも「水無瀬離宮跡」から約150m南と近い場所に位置し、水無瀬離宮跡に関連する遺構が存在する可能性があったため、発掘調査を実施することとした。

地区名	調査地	調査期間
広瀬遺跡	広瀬三丁目444番1、445番1、446番1、447番1、448番6	平成25年3月4日～ 平成25年4月5日

付表1 本報告書掲載遺跡

註

- (1) 野口尚志 1991 『島本町文化財調査報告書』第1集 島本町教育委員会
- (2) 久保直子・木村友紀 2012 『島本町文化財調査報告書』第19集 島本町教育委員会
- (3) 久保直子・若林純也・大西健吾 2010 『島本町文化財調査報告書』第16集 島本町教育委員会
- (4) 木村友紀・大西晃靖・辻康男 2013 『島本町文化財調査報告書』第24集 島本町教育委員会
- (5) 久保直子 2012 『島本町文化財調査報告書』第18集 島本町教育委員会
- (6) 久保直子・木村友紀 2013 『島本町文化財調査報告書』第23集 島本町教育委員会

第3章 広瀬遺跡発掘調査

調査期間：平成25年3月4日（月）から平成25年4月5日（金）

調査地：大阪府三島郡島本町広瀬三丁目444番1、445番1、446番1、447番1、448番6

調査面積：約777.9m²

第1節 調査経緯

本事業は、宅地造成工事に伴うものであり、記録保存を目的として実施した発掘調査である。宅地部分は盛土されるため遺跡は保護されるが、宅地の間を走る道路部分の下層は、長期間にわたり人の手から離れることとなる。そのため、当該調査は、道路部分を対象として実施した。

道路は、南北約92mであるが、北端より約30mの場所と約73mの場所から西に約15m分岐する。幅は全て約6mである。

南北道路の北端から南へ約30mまでの範囲を1地区、1地区南端から南北道路南端までを2地区、2地区北端から西に約15m伸びた範囲を3地区、南北道路北端より約73mの場所から西に約15m伸びた範囲を4地区と呼称することとする。

発掘調査を行うにあたり、1地区北端、2地区南端、3地区西端の3か所に試掘坑を設定し、掘削を行った結果、地表面から約20cmの深さで近世の遺物包含層、約1mの深さで遺構面が存在することを確認した。

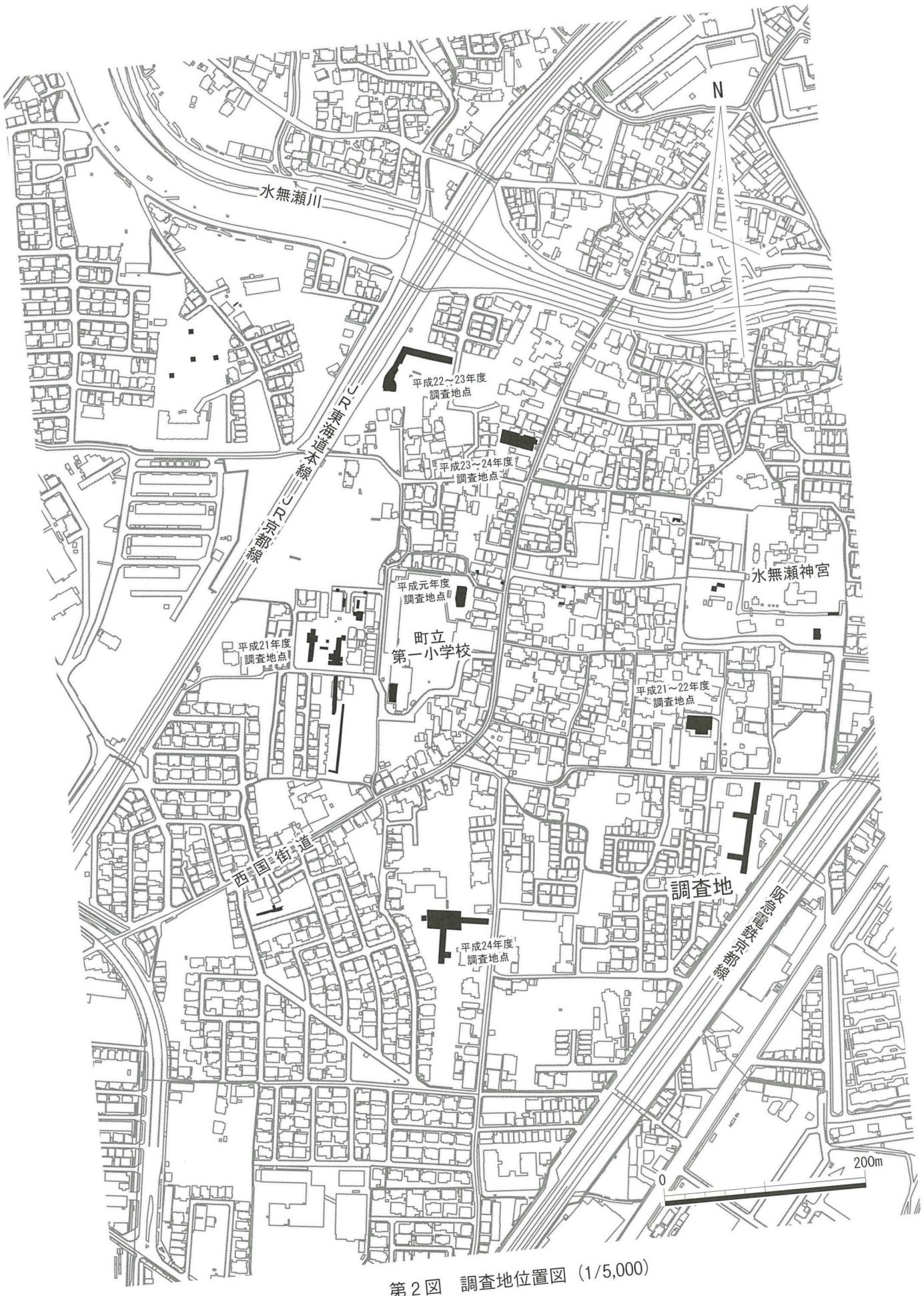
そのため、まず深さ約20cmまで機械掘削を行い、遺構検出を行っていった結果、遺構・遺物共に僅少であったので、深さ約1mまで重機で掘り下げて、遺構検出を行うこととした。その結果、縄文時代晩期の堅穴住居跡や石器工房跡と考えられるような遺構等を検出した。

その後、平成25年4月5日に埋め戻しが完了し、調査を終了した。

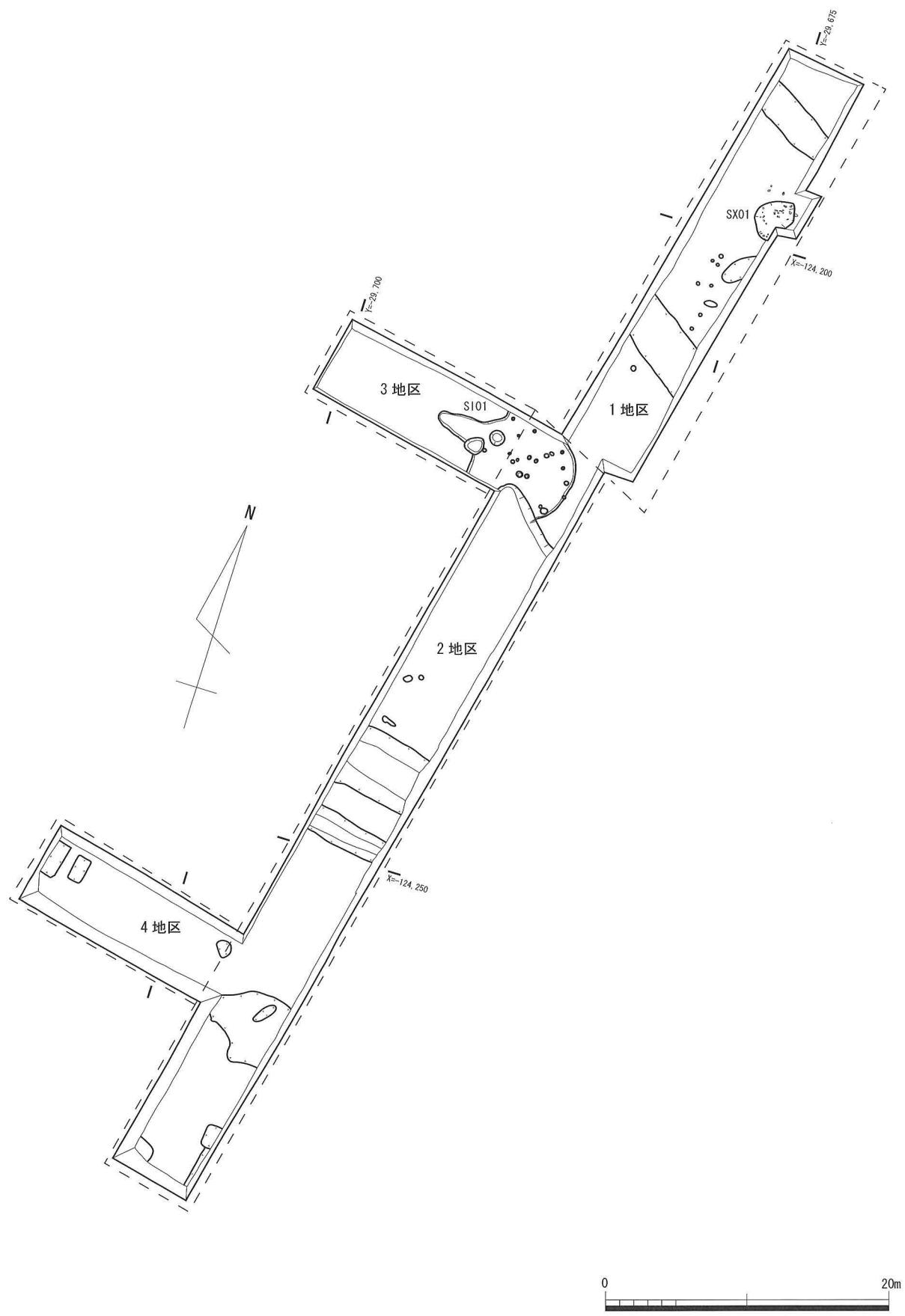
第2節 層位（第4図）

調査地の基本層位は、上から順に、約20cmの厚さの現耕作土（第1層）、7～50cmの厚さの褐色シルト層（第7層、近世遺物包含層）、7～31cmの厚さのにぶい黄橙色シルト層（第20層）、5～44cmの厚さの黄褐色砂粘土（第24層）、12cm以上の厚さの褐色粘質土（第30層）、14cm以上の厚さの明褐色粘質土（第37層）、17cm以上の厚さのオリーブ褐色粘質土（第39層）である。

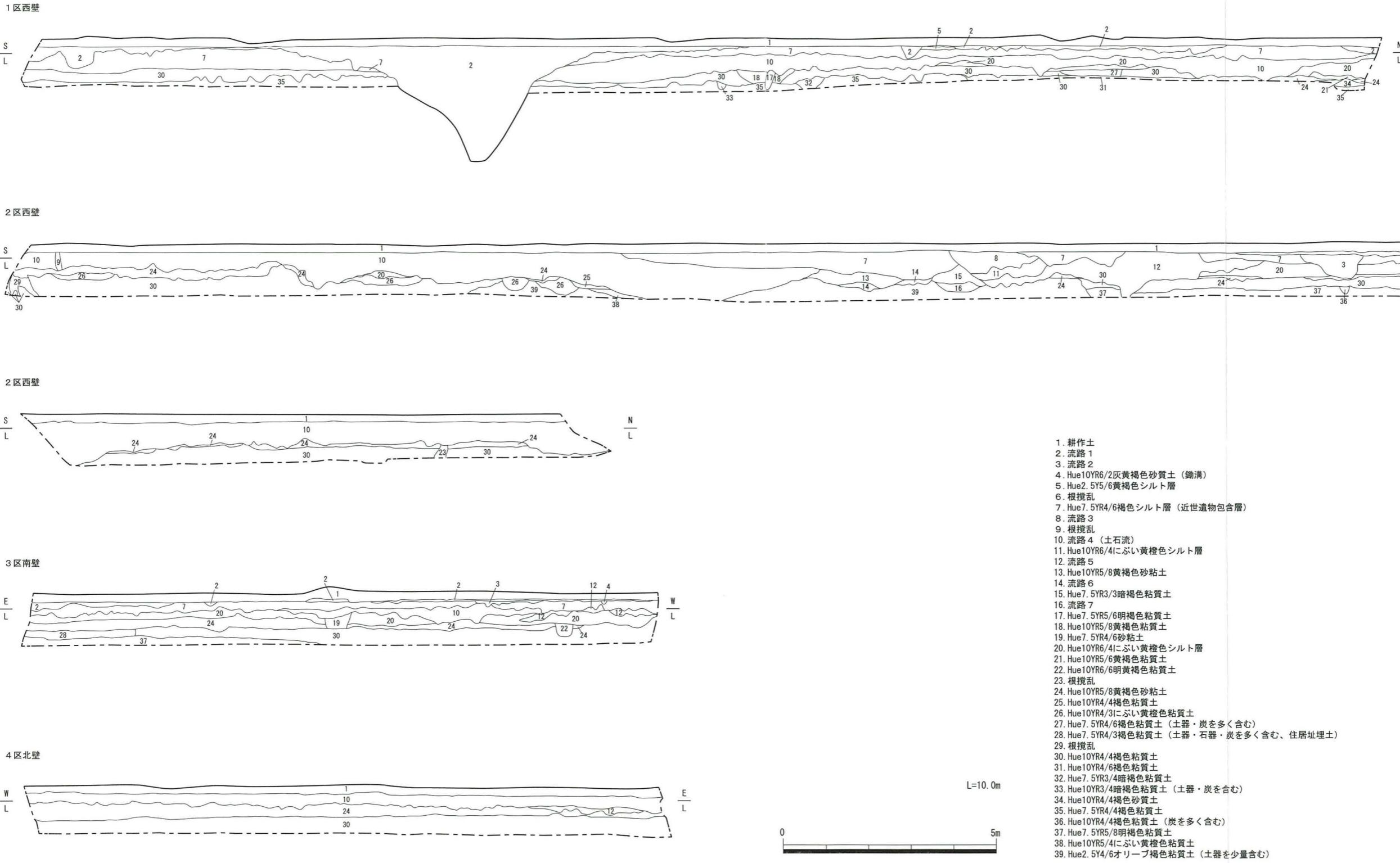
現耕作土下は、流路状堆積が非常に多く見られ、調査地全体が幾度となく水害や土石流等の影響を受けてきたことが窺える。特に第1層と第7層の間の流路状堆積（第2層）は、1地区において、約2.5mもの深さまで鋭角に切り込んでいる。これは、人為的に形成された溝が、土石流等によって埋没したものであるかもしれないが、遺物等は混入しておらず、形成された



第2図 調査地位置図 (1/5,000)



第3図 調査区平面図 (1/400)



第4図 調査区壁面断面図 (1/100)

時期や埋没した時期を知ることはできなかった。

第30層直上が、縄文時代の遺構面であるが、遺構のほとんどは調査地北半で検出している。

縄文時代の遺構は、2地区北側から調査地北側に向かって広がっていた可能性がある。

第39層内にも土器の小片が見られたが、少量であり、遺構等も認められなかった。

第3節 検出遺構（第3図）

【竪穴式住居跡S I 01】（第5図）

2地区と3地区にまたがる直径約7.5mの竪穴式住居跡である。西側に約3mの突き出し部があるが、この部分の性格は不明である。

埋土内は、縄文時代晚期の土器・石器・炭を多く含む黒褐色粘砂土と暗褐色粘砂土が堆積しており、その土器の年代から、廃絶時期は縄文時代晚期と考えられる。また、埋土内に炭を多く含むことから、最後は火災にあって廃絶したものと思われる。明確な貼床を確認することはできなかった。

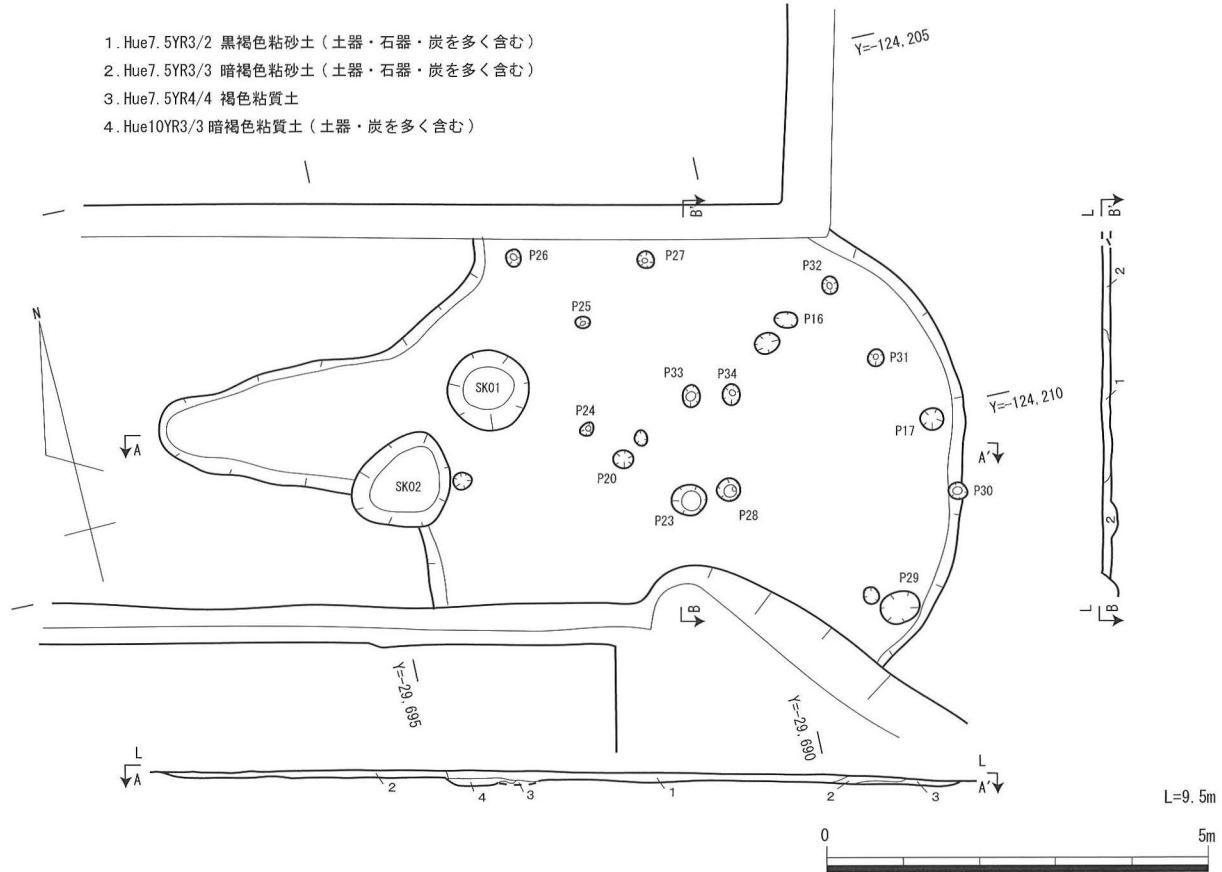
S I 01内には、P 16・17・20・23・24・25・26・27・28・29・30・31・32・33・34、SK 01、SK 02（第5図）が存在し、P 17・26・29・30・31・32はS I 01の壁際に位置することから、S I 01の柱穴である可能性がある。また、SK 01はS I 01の西端付近に位置するものの、埋土内に非常に多くの炭が混入していることから炉跡である可能性がある。しかし、SK 01内に被熱している痕跡は認められなかった。

【性格不明遺構S X 01】（第6図）

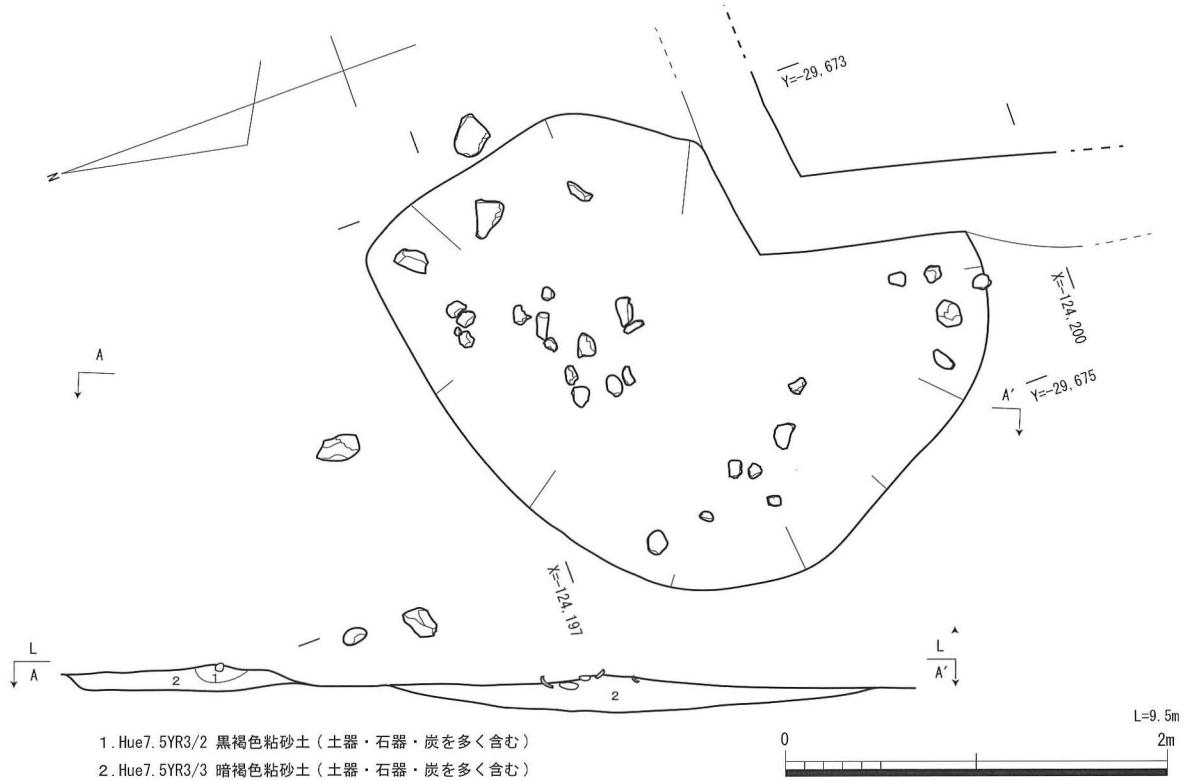
1地区で検出した性格不明遺構である。平面形は直径約4mの円形を呈するが、遺構の立ち上がり部分が不鮮明であり、不定形な遺構である可能性がある。また、S X 01の周辺には、S X 01の埋土と同様に土器・石器・炭を多く含む黒褐色粘砂土と暗褐色粘砂土が堆積している場所が存在したが、平面形が不定形であり、その境が不鮮明であるため、明確な遺構としては検出することができなかった。

埋土内には、縄文晚期の土器や石器が混入しており、S X 01の年代は縄文時代晚期と考えられる。石器の中には、未製品や剝片なども非常に多く含まれており、この場所で石器の製作が行われたものと思われる。

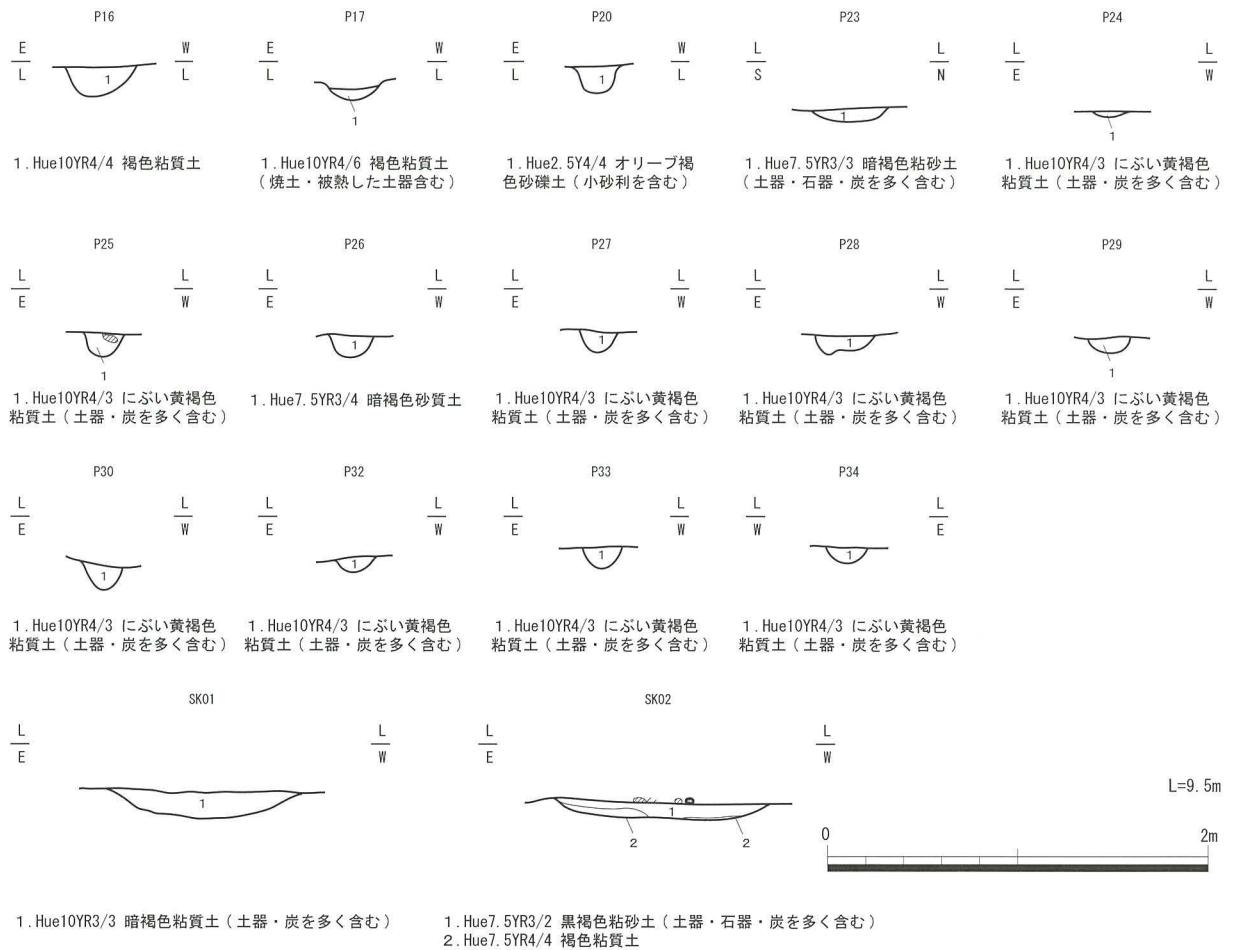
遺構の境が非常に不鮮明であることから考えると、おそらく明確な施設は築かれず、作業場として石器製作のために頻繁にこの場所を訪れたことにより、濁った土がこの場所に堆積したものと思われる。



第5図 SI 01平面図・断面図 (1/100)



第6図 SX 01平面図・断面図 (1/40)



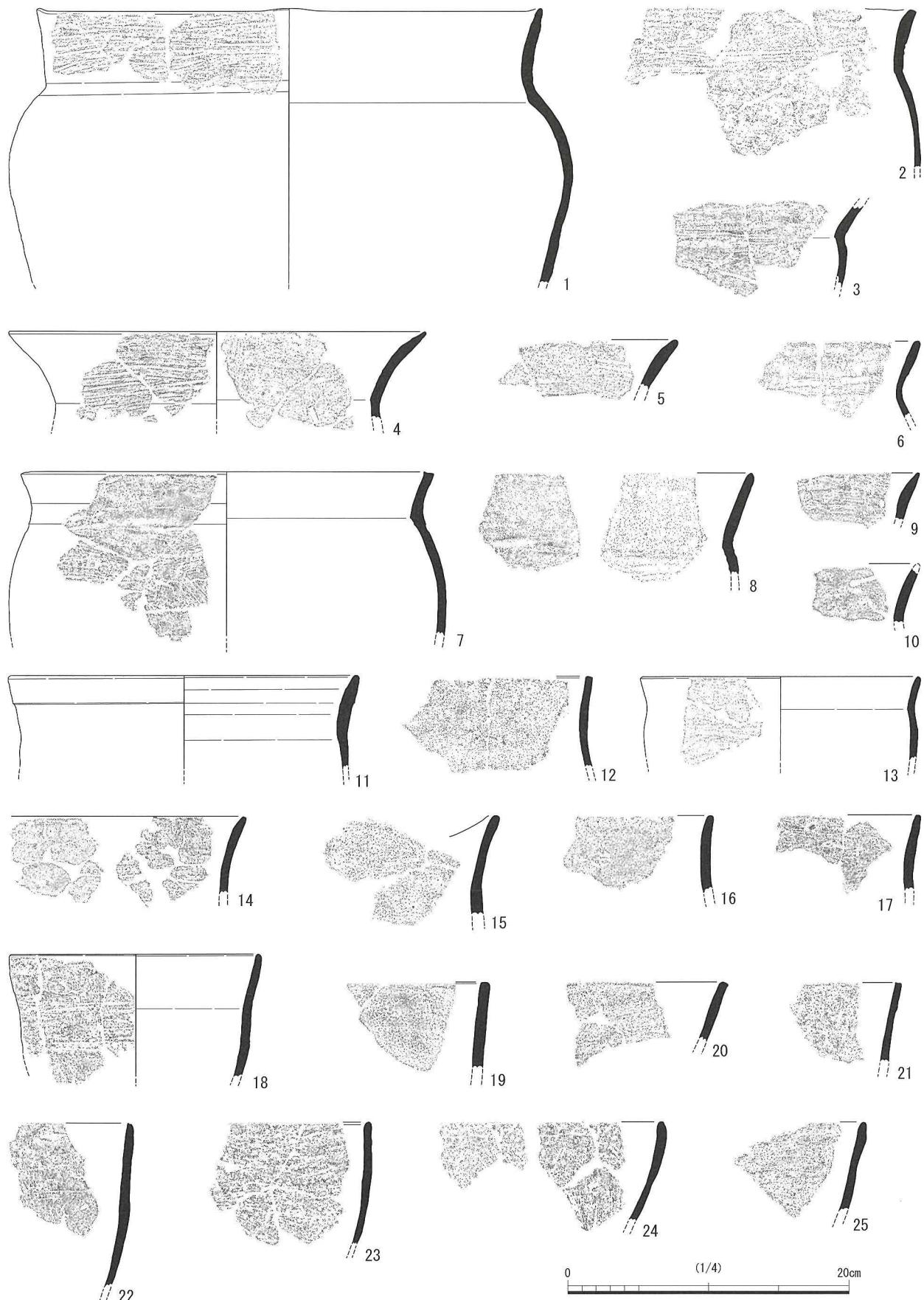
第7図 S I 01内検出遺構断面図 (1/40)

第4節 出土遺物

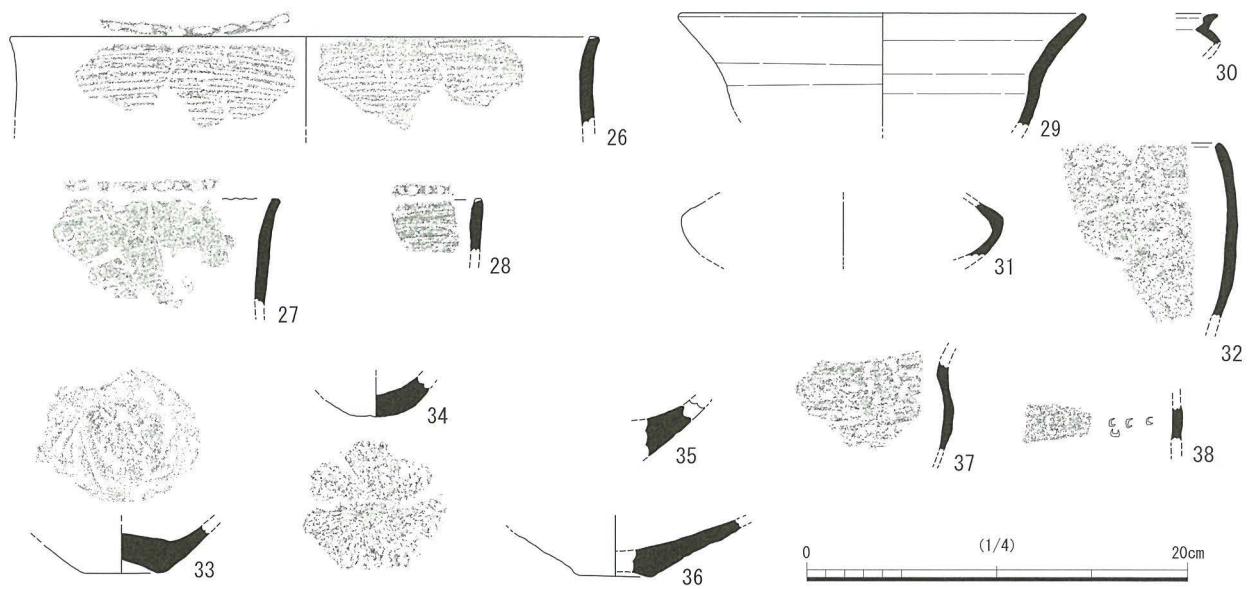
S X01出土土器 (第8・9図、図版四・五 (上))

1~10は口縁部が屈曲して外にひろがる深鉢である。1・2は口縁部の広がりが控えめで直立に近い。土器の最大径が肩部にある。いずれも口縁部外面に横方向の二枚貝条痕を施し、頸胴部界を横方向に軽くナデている。胴部外面はケズリである。1は口縁部が水平ではなく、ごく小さな波頂部を4か所に作り出しているようだ。3は口縁端部を欠失しているが、口縁部外面に二枚貝条痕、頸胴部界にヨコナデを入れるのは1・2と同様である。4は口縁部外面を二枚貝条痕、内面をナデで調整し、口縁端部内面を軽く押さえて若干薄く仕上げている。これらは篠原式でも古～中段階に遡るものであろう。5~10は口縁部外面に条痕が残らず、おおむねナデで仕上げるものである。7は口縁部がやや短く、口唇部にも面を作る。胴部はやや球形気味で、内外面はケズリである。篠原式新段階以降。

11~17は口縁部の屈曲が緩やかで、かつ立ち上がりも垂直に近い深鉢である。口縁部内外面はナデ、もしくは条痕ののちナデで仕上げる。おおむね篠原式新段階のものであろう。



第8図 SX01出土土器実測図1 (1/4)



第9図 SX01出土土器実測図2 (1/4)

18~25は口頸部の屈曲がない、あるいはごく弱い、砲弾形の深鉢である。口頸部はまっすぐ、あるいは内湾気味に立ち上がる。内外面はナデ、もしくはケズリののちナデで仕上げる。18は口頸部がごく軽く屈曲しながら立ち上がるもので、内面はナデ、外面は原体不明のケズリに軽いナデを加えているようだ。23・24は胴部が下方にすぼまっていくので鉢状の器形であろう。これらはおおむね篠原式新段階のものであろう。

26~28は口唇部に刻目を有する深鉢である。26は口唇部に面を作り、そこに大振りの刻目を連続して施す。内外面は二枚貝条痕を施しさらに軽くナデしている。27・28は口唇部の刻目が26よりは小振りになり、27は内外面をナデで、28はケズリののちナデで仕上げている。篠原式中段階以降のものと考えられる。

29~32は浅鉢である。29は浅い椀形の胴部から口縁部が屈曲して外に開く。表面は傷みが激しいが、ナデと思われる。胎土に長石・石英・金雲母・角閃石を多量に含む生駒西麓の土器である。30・31はソロバン珠形の胴部から口縁部が屈曲して短くのびる浅鉢である。30は口頸部のみ、31は胴部のみが遺存する。篠原式新段階のものであろう。32はボウル形の浅鉢で、内面はナデ、外面は傷みが激しく調整不明だが、胎土に2~5mm程度の礫を含む。河内の胎土の可能性がある。篠原式の中で考えてよいものである。

33~36は底部である。33・36は凹底の底部。34は丸底で内底面をナデで仕上げており、おそらく浅鉢であろう。35は底面までは残っていないが、底部近くに焼成後穿孔かと思われる部分がある。

37・38は胴部に刺突文の認められるものである。37は胴部上半の破片で、ハの字状の連続刺

突を縦位に施文する。原体は幅が広く16mmある。38はかなり崩れた逆コの字状の連続刺突を横位に施文し、その下に縦位の刺突を1か所のみいれる。河内の胎土か。

S X01出土の縄文土器は晩期中葉の篠原式古段階・中段階土器をわずかに含むものの、篠原式新段階を主としており、遺構の時期も篠原式新段階としてよからう。滋賀里Ⅲa式、滋賀里Ⅳ式は皆無である。

S X01出土石器（第10図、図版七）

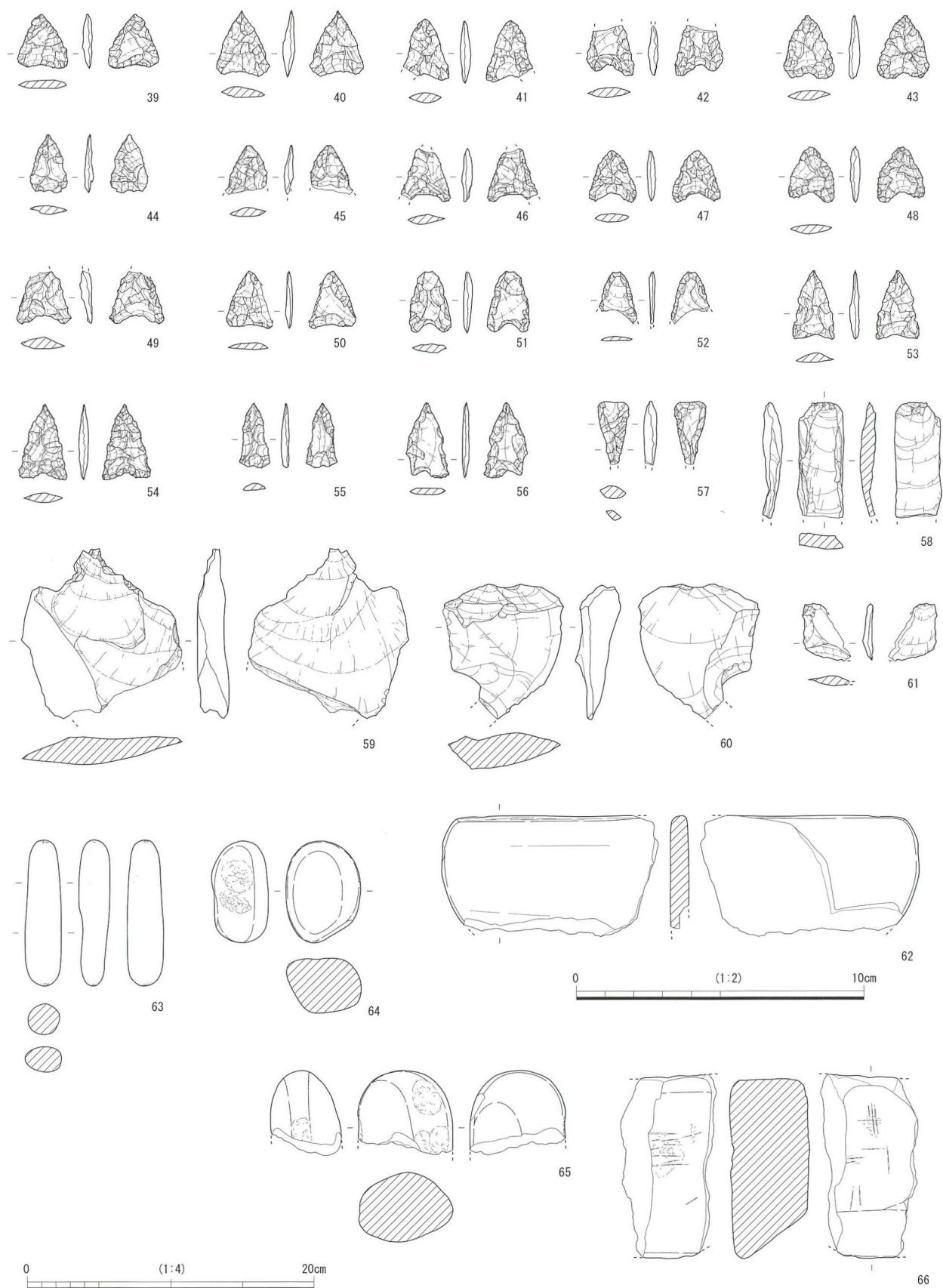
39～56は石鏸である。55を除き、すべて凹基無茎式に分類される。凹基といつても抉りの深いものではなく、小さく浅い抉りである。全体が遺存しているもので最小の石族は47で長さ18mm、最大の石族は54で長さ26.5mmである。幅と長さの比率では、長さ／幅の値が1.6以上の長身のもの4点と、1.6未満の短身もの7点にわけることができる。また両面にていねいな細部調整を施した40・47・54などがある一方、細部調整の及ばない広い剥離面を両面に残す例52・56や片面に残す例42・50・51が目立つ。55は細身の石鏸で基部の調整が簡素である。石材はサヌカイトであるが、実測図を掲載した全18点中、二上山産と見えるもの10点、金山産かと思われるもの7点、判断のつかないもの1点となる。ただし肉眼観察による「見た目」の判別である（以下も同様）。

57は石錐で、先端を欠失している。58は縦長剥片で、上端に打撃痕が認められる。石材はいずれも二上山産サヌカイトである。

59～61はサヌカイト剥片である。59はA面の上端と左端のごく一部に原礫面を残す。A面左側は風化が進んでおり、古い時期の剥離面である。60はB面の上端右側が原礫面、他は風化の進んだ剥離面である。

62は石包丁の可能性のあるもの。黒色の粘板岩製で、背から左側縁が遺存する。刃部はまったく残っていない。現存長7.5cm現存幅4.2cm、厚さ0.65cmである。B面は表面の左側約3／5を欠失している。遺存する範囲では紐孔等は認められない。顕著な使用痕も認められないので未製品あるいは製作時の破損品かもしれない。

63～66は礫石器である。63は棒状の石製品で、断面形は上方が略円形、下方が橢円形である。全体に磨滅が進んでいるが、上端・下端に使用痕がある。64・65は敲石で、64は上面、左側面、右下側面などに敲打痕・使用痕が認められる。65はおよそ半分に割れている。周縁各所に敲打痕が認められる。66は台石である。厚さ5～6cmの扁平な石材を用いているが、両端を欠失している。平坦面の表裏両面に使用痕があり、敲打痕、筋状の擦過痕などが認められる。



第10図 S X 01出土石器実測図 (1/2・1/4)

1 地区出土石器（第11図、図版八）

ここでは1地区のS X01以外から出土した石器を報告する。

67・68は凹基無茎式石鏃である。67は長さが短く正三角形に近いもので、先端のごく一部を欠失する。68はやや長身で五角形鏃に似る。

69はスクレイパーである。背および側縁に原礫面を残す板状の剥片を素材とし、長側縁に両面から細部調整を加えて肉厚の刃部を作り出している。刃部の一部にガジリがある。

70～76は剥片である。一部に細部調整の認められるもの72～74、一部に原礫面を残すもの70・74～76などがある。

77はサヌカイト石核である。こぶし大よりやや小さめの原礫の一部に風化の進んだ剥離面がある。全体が著しくローリングを受けている。大きさは5.3cm×6.7cm×3.75cmで1.43kgである。二上山産と考えられる。

78～82は礫石器である。78・79は小型の台石か。80は研磨痕が目立ち磨石としておく。81は敲石、82は台石である。いずれも砂岩製である。

S I 01出土土器（第12・13図、図版五（下）・六）

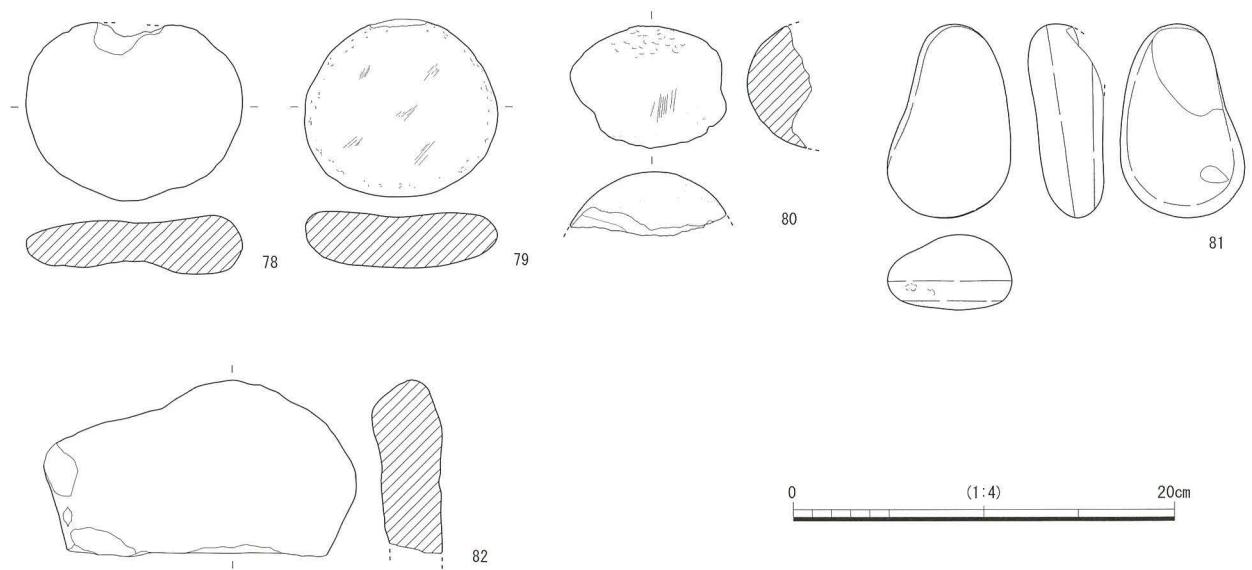
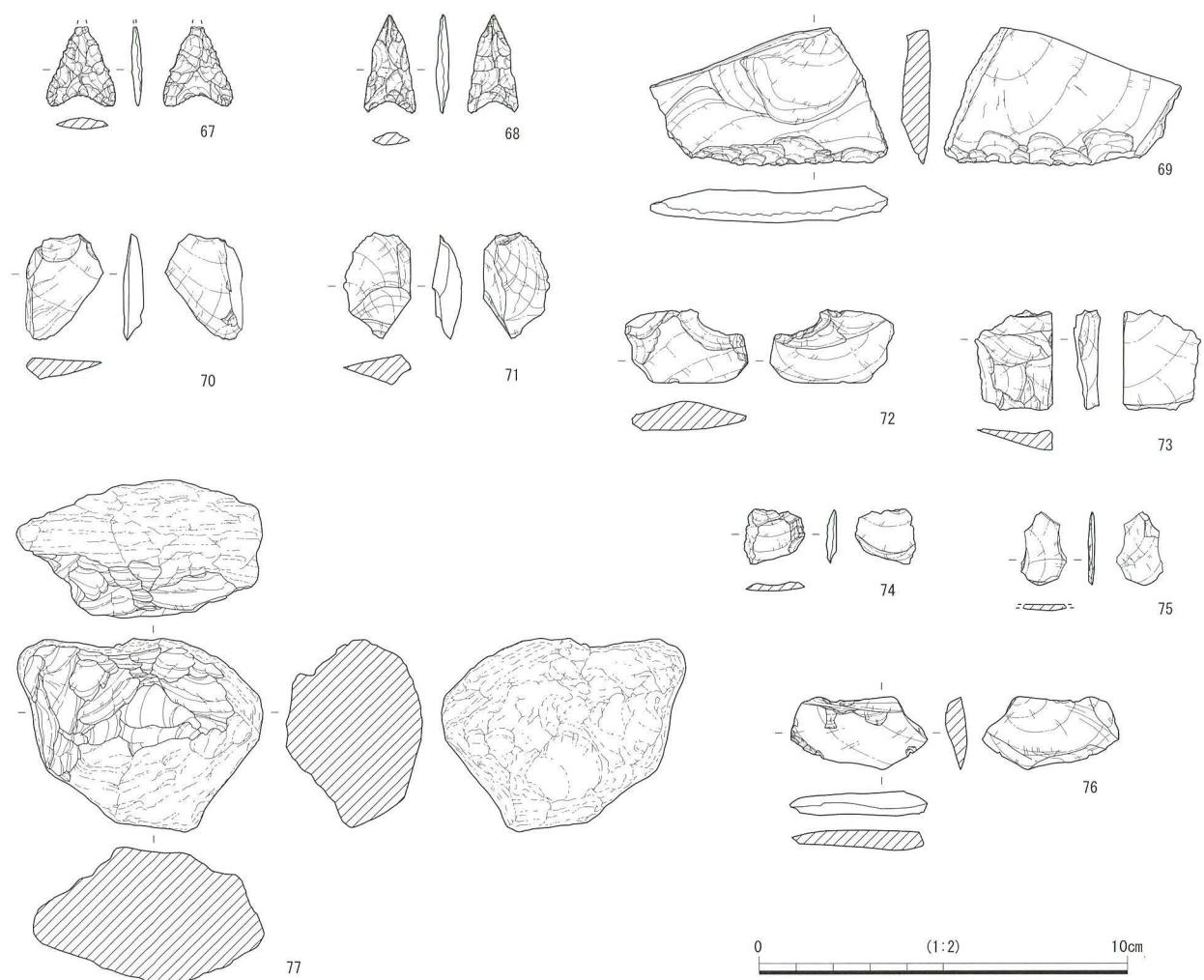
83～94は口縁部が屈曲して外にひろがる深鉢である。82～86は口縁部外面に二枚貝条痕を施すもので、これらは篠原式でもより古い段階に属するものと考えられる。84は口縁部外面に二枚貝条痕、口縁部内面はナデ、胴部外面は斜め方向のケズリ、胴部内面は横位のケズリを施し、外面頸胴部界にナデが入る。しかし頸部内面は稜をもって屈曲する。

87～94は口縁部外面に二枚貝条痕がなく、ナデ、あるいはケズリのうちナデを施すものである。胴部外面はケズリ、あるいはケズリのうちナデを施すものが多い。88・89・91は胴部にケズリがよく観察される。他の個体も遺存部よりも下部にケズリが残る可能性は大きい。87は口縁部に小波頂を作っている可能性がある。92は口縁部の厚みに比べて胴部が薄い。93は口縁部外面を板状の原体でナデしているかもしれない。

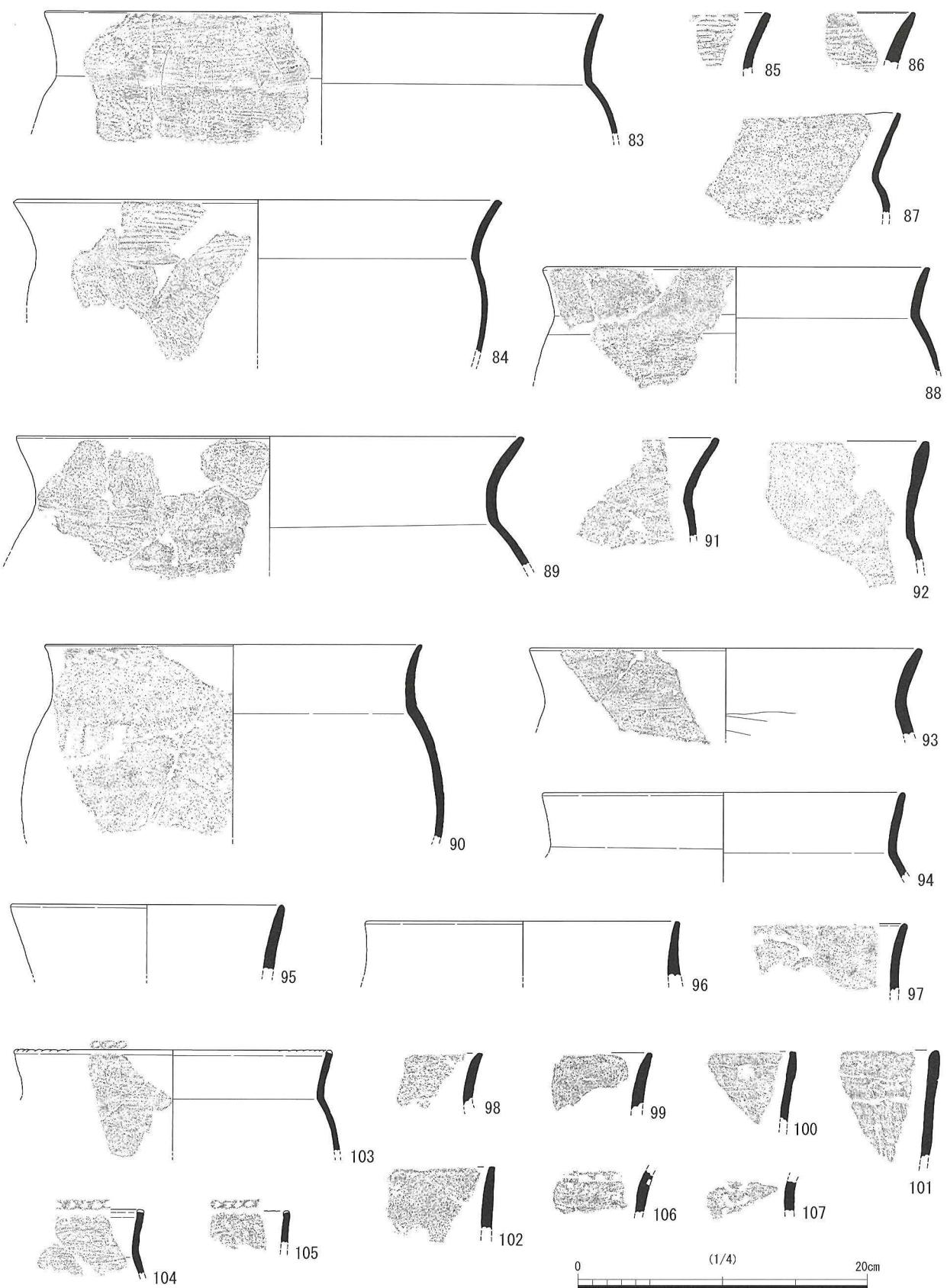
95～102は口頸部の屈曲がない、あるいはごく弱い、砲弾形の深鉢である。口縁部付近はナデ仕上げするものが多い。97～99のように弱く外反するものは頸部で屈曲する器形の可能性もある。100・101は粘土紐の接合痕が観察される。101は口縁部付近を軽くナデ調整するが、それ以下は縦位のケズリが見られる

103～105は口唇部に刻目のみられる深鉢である。103は口頸部が軽く屈曲する深鉢で、口縁部内外面はナデ、胴部外面はケズリに軽いナデを施す。口唇部の刻目はやや軽く、斜め方向に刻む。104は105と同工の深鉢で、同一個体の可能性もある。

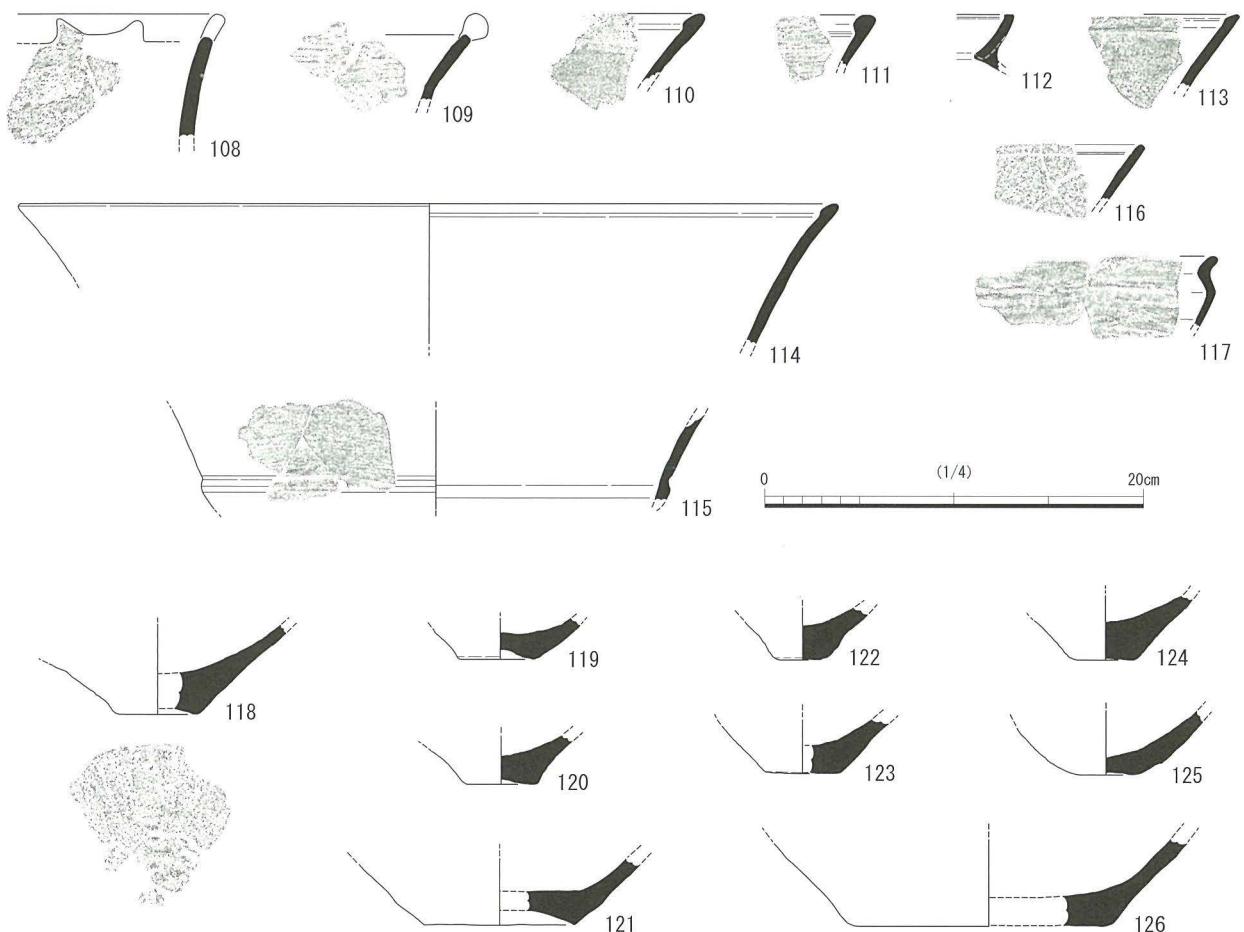
106・107は胴部に刺突文の認められるものである。106は横位の、107は縦位の連続刺突文が



第11図 1地区出土石器実測図 (1/2・1/4)



第12図 S I 01出土土器実測図 1 (1/4)



第13図 S I 01出土土器実測図 2 (1/4)

認められる。

108～115は浅鉢である。108～111・113～116は口頸部が外に開く浅鉢である。108・109は口縁端部にリボン状の突起をつけている。突起は端部のみが遺存しており、大きさは不明、複合突起の可能性もある。108は突起があまり肥厚しないのに対し、109は肥厚が著しい。109は外面に二枚貝条痕が残る。110・111・114は口縁端部を内側に丸く肥厚させる。113は内側への肥厚がごくわずかで、上端に面をもたせるように作る。115は口縁部を欠失している。頸胴部界の屈曲がごく小さくなっている。116は口縁端部が肥厚することなくおさまる浅鉢で、口縁端部内面に1条の沈線を施文する。112・117は口頸部が屈曲する浅鉢である。112は胴部から屈曲して内湾気味に短く外に開く。口縁端部を肥厚させるものが通有だが、本例は肥厚させず端部に面を作る。117は胴部があまり張り出さず、口頸部の屈曲も緩やかなもの。端部は丸くおさめている。

118～126は底部である。118～120は小さな凹底、121は大きな凹底、122～124は小さな平底である。125は丸底で底面にごく小さくぼみを造り出している。浅鉢底部であろう。126は大

きな平底に復元しているが、底面の残存部がわずかであり凹底の可能性もある。

S I 01出土土器は、S X01同様、篠原式新段階に属すると考えられる。

S I 01出土石器（第14図、図版九）

127～143は石鏃および石鏃未製品である。製品はすべて凹基無茎式である。抉りが著しく深いものは認められない。平面形は短身で正三角形に近いものから、長身のものまで様々である。細部調整が全体に施され作りのていねいなもの128・137がある一方、細部調整の及ばない広い剥離面を両面に残す例133・135・138や片面に残す例129・134・136も多い。

142は石鏃未製品である。側縁の細部調整が半ばであり、基部の調整はほとんど施されていない。143は全体に細部調整が希薄で、未成品の可能性もある。A面にコブ状の突起を残すもので、このようなコブは縄文時代後晩期の石鏃に若干見られる。138は製品に分類しているが、未製品の可能性もある。実測図を掲載した全17点中、二上山産と見えるもの12点、金山産かと思われるもの4点、判断のつかないもの1点となる。

144～151は剥片である。146は尖った先端を有するが石錐とは断定できない。150には一部に細部調整が認められ、製品の破損品かもしれない。

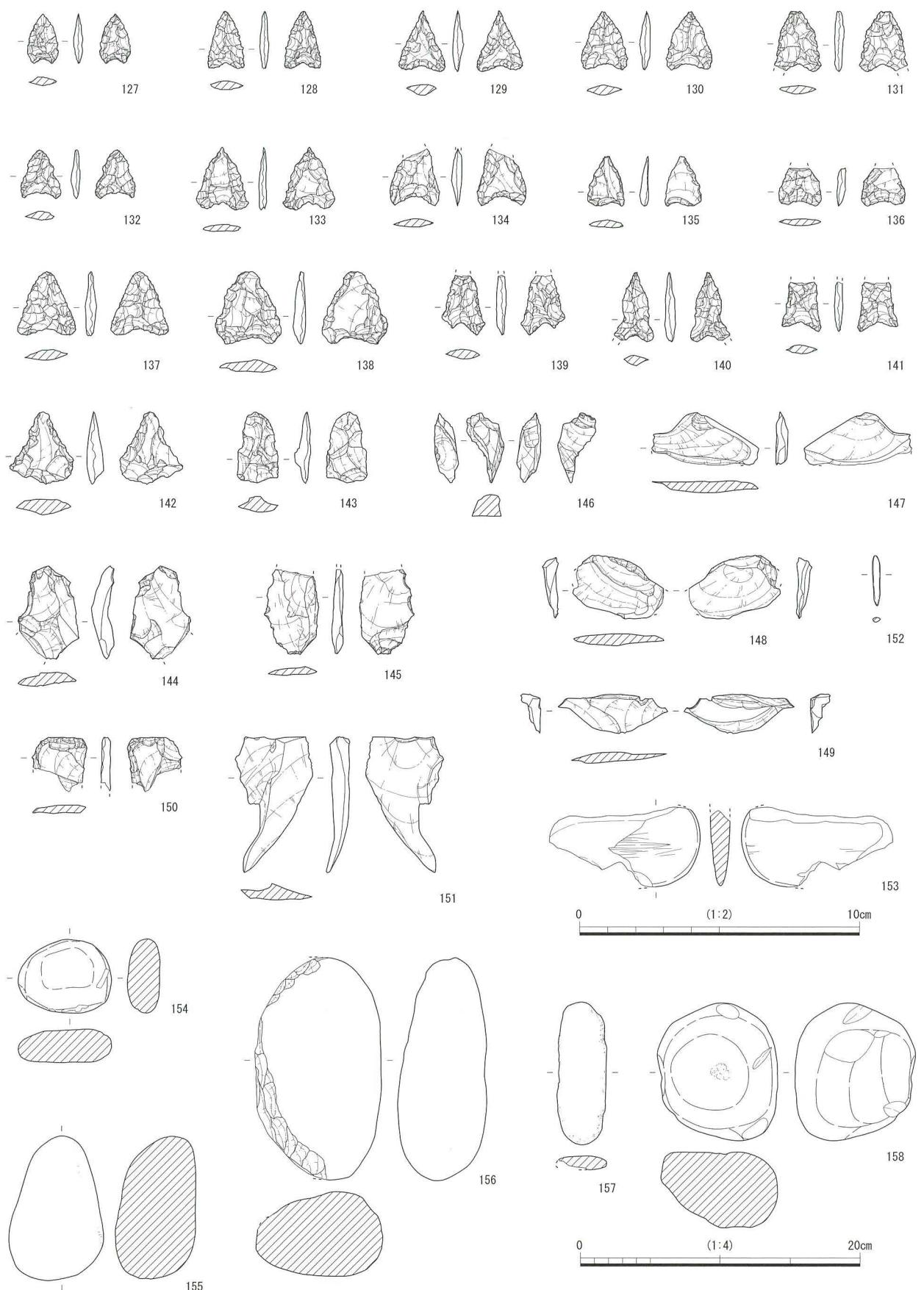
152は石針であろうか。長さ18mm、太さ2mm、先端は尖る。石材不明。

153は石包丁の可能性があるものである。遺存部分は少なく、右側縁から刃部にかけて残るのみである。背はほとんど残っていないが、遺存部分からみて直線的な背の可能性が高い。刃部は外湾刃と考えられるが、直線刃に近い形状になっているようだ。A面には横方向の擦痕が認められるが、擦痕よりは明らかに太く深い横方向の直線状抉りこみが認められる。擦り切り溝の可能性がある。遺存する範囲では紐孔は認められない。

154～158は礫石器で、156は台石、それ以外は敲石である。154は薄手の敲石で、ほぼ全体に使用痕がある。157は短い棒状を呈する薄い石製品で、ここでは敲石に含めているが用途は不明である。158はほぼ全体に使用痕がある。二次焼成を受けている。156は台石でこれも二次焼成を受けている。

S X01の62、S I 01の153は石包丁の可能性があるものとした。しかし、現時点では兵庫県口酒井遺跡出土の口酒井段階の石包丁が最古の例である。篠原式段階では近年のレプリカ法による圧痕調査でもモミは未確認であり、石包丁の存在とは整合的でない。ここでは形態から見て石包丁の可能性を含むものとして報告しておきたい。

また、S X01・S I 01では定形のサヌカイト石器だけでなく、多量の石核・剥片・チップが出土している。量的にはS I 01が多く、全体の8割程度はS I 01出土である。今回は定形石器の代表的なものの報告にとどまることを了とされたい。



第14図 S I 01出土石器実測図 (1/2・1/4)

第5節　まとめ

今回の発掘調査では、縄文時代晚期の竪穴住居跡と石器工房跡と考えられる遺構を検出した。

縄文時代の遺物は、町内では越谷遺跡から縄文時代後期の北白川上層式1期から2期のものが出土しているが、遺構を検出したのは、今回の発掘調査が初めてのことである。また、広瀬遺跡内においては、縄文時代の遺物が出土したことも初めてである。

広瀬遺跡は、遺構を伴わないものもあるが、弥生時代から近世まで各時代の遺物が出土し、長く人々が生活をしてきた土地であることがわかっているが、今回の発掘調査により、生活の場として利用されてきたのは、縄文時代まで遡れることができた。

今回の発掘調査では、一基の竪穴住居跡と一か所の石器工房跡を検出したのみであるので、縄文時代の集落跡の広がりを把握するには、今後の発掘調査成果を待たなければならないが、調査地南半で住居跡を確認できなかったことを考えると、この縄文時代の集落跡は北側に広がっていた可能性が高い。

発掘調査が進み、広瀬遺跡における縄文時代の集落跡の全容が明らかになっていけば、今回の発掘調査で検出した石器工房跡が、その集落内においてどのような位置づけだったのか明らかになっていくものと思われる。

また、広瀬遺跡の南西には、桜井駅跡遺跡や青葉遺跡から弥生時代の遺構が検出されているが、今回の縄文時代晚期の集落から南西に位置する弥生時代の集落へどのように推移していくか解明していくのが今後の課題である。

今回の発掘調査の成果は、町内の縄文時代の様相や縄文時代～弥生時代の推移を明らかにしていく上で、一つの指標になる重要なものであると思われる。

番号	図版番号	遺構	器形	法量			胎土	焼成	色調	備考
				口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)				
1	四	1地区SX01東拡張	深鉢	(36.0)	(19.6)		やや粗 3mm以下の石粒、7mm以下の赤色粒(茶)を多く含む	やや良	外)10YR8/3-5/3 淡黄橙～にぶい橙 内)2.5Y4/1-7/1 黄灰～灰白	篠原式(古～中) 二枚貝条痕
2	四	1地区SX01③	深鉢		(11.2)		密 長石・クサリレキ含む	良好	外)10YR5/4-7.5YR5/4-7.5YR6/6 にぶい黄褐色～にぶい褐色～橙 内)10YR5/2-3/1 灰黄褐色～黒褐色	篠原式(古～中) 二枚貝条痕
3	四	1地区SX01東拡張	深鉢		(5.0)		やや粗 雲母細粒・大粒のクサリレキ含む	良好	外)10YR7/6-10YR6/4 明黄褐～にぶい黄褐 内)2.5Y5/1 黄灰色	篠原式(古～中) 二枚貝条痕
4	四	1地区SX01東拡張	深鉢	29.8	(6.2)		密 雲母、～3mmクサリレキ含む	良好	外)7.5YR6/6 橙 内)10YR4/1-10YR7/4 褐灰色～にぶい黄橙	篠原式(古～中) 二枚貝条痕
5	四	1地区SX01	深鉢		(3.5)		密 長石・大粒のクサリレキ含む	良好	外)10YR7/6-4/1 明黄褐～褐灰 内)10YR7/6-2.5YR4/1 明黄褐～黄灰	二枚貝条痕
6	四	1地区SX01東拡張	深鉢	34.2	(5.3)		密 ～1mm雲母・長石含む	良好	外)5YR4/6-7.5YR4/3 赤褐～褐色 内)5YR5/6-7.5YR4/3 明赤褐～褐色	滋賀里Ⅲ2～篠原？
7	四	1地区SX01土器溜り	深鉢	29.4	(11.8)		密 ～2mm長石・金雲母含む	良好	外)10YR5/3 にぶい黄褐 内)10YR5/4 にぶい黄褐	篠原式(新～)
8	四	1地区SX01東拡張	深鉢		(7.2)		密 ～1mm長石・雲母細粒含む	良好	外)10YR7/4-10YR4/4 にぶい黄橙～にぶい黄褐 内)10YR4/1 褐灰色	篠原式(新～)
9	四	1・3地区 精査	深鉢		(3.4)		密 砂粒を多く含む	良	外)10YR5/3-5/4 にぶい黄褐～黒 内)10YR5/4 黒	篠原式(新～)
10	四	1・3地区 精査	深鉢				密 3mm以下の石粒を含む	良	外)7.5YR4/2-2/2 灰褐～黒褐 内)5YR5/6-7.5YR2/2 明赤褐～黒褐	篠原式(新～)
11	四	1地区SX01	深鉢	25.0	(6.7)		やや粗 雲母・長石含む	良好	外)10YR4/2-5/8 灰黄褐色～黄褐色 内)10YR4/2 灰黄褐色	篠原式(新～)
12	四	1地区SX01東拡張	深鉢	41.0	(6.5)		粗 ～2mm長石多く含む	良	外)2.5Y5/2-2.5Y4/3 暗灰褐～オーリーブ褐 内)2.5Y3/2 黒褐	篠原式(新～)
13	四	1地区SX01	深鉢	19.6	(6.0)		密 長石含む	良好	外)7.5YR3/2 黒褐色 内)7.5YR3/2 黒褐色	篠原式(新～)
14	四	1地区SX01東拡張	深鉢		(5.6)		密 雲母、大粒のクサリレキ含む	良好	外)7.5YR5/6 明褐色 内)7.5YR4/1-10YR6/3 褐灰色～にぶい黄橙	篠原式(新～)
15	四	1地区SX01土器溜り	深鉢		(7.0)		やや粗 長石含む	良	外)7.5YR6/8 橙 内)7.5YR6/8 橙	篠原式(新～)
16	四	1地区SX01③	深鉢	44.8	(5.4)		密 クサリレキ含む	良好	外)7.5YR6/6-10YR7/6 橙～明黄褐色 内)10YR6/6 明黄褐	篠原式(新～)
17	四	1地区SX01東拡張	深鉢		(5.3)		密 雲母・長石含む	良好	外)10YR2/2-10YR6/3 黑褐～にぶい黄橙 内)10YR3/1 黑褐色	篠原式(新～)
18	四	1地区SX01③	深鉢	(18.0)	(8.7)		やや密 2mm以下の石粒を多く含む	やや良	外)10YR7/2-3/1 にぶい黄橙～黒褐 内)10YR6/3-7.5YR3/1 にぶい黄橙～黒褐	篠原式(新～)
19	四	1地区SX01	深鉢	29.8	(6.1)		密 雲母、長石細粒含む	良好	外)10YR6/6-5/2 明黄褐～灰黄褐 内)10YR5/1 褐灰	篠原式(新～)
20	四	1地区SX01	深鉢	40.0	(4.3)		やや粗 雲母・長石・石英含む	良	外)10YR7/8 黄橙 内)2.5Y4/2 暗灰黄	篠原式(新～)
21	四	1地区SX01①	深鉢		(5.7)		やや粗 クサリレキ含む	良好	外)10YR6/6-7.5YR6/6 明黄褐～橙 内)10YR6/6-10YR5/6 明黄褐～黄褐	篠原式(新～)
22	四	1地区SX01東拡張	深鉢		(11.7)		やや粗 雲母・長石・大粒のクサリレキ含む	良好	外)7.5YR6/6 橙 内)10YR6/6 明黄褐	篠原式(新～)
23	四	1地区SX01東拡張	深鉢	41.0	(9.7)		粗 ～2mmクサリレキ、～1mm長石・雲母含む	良好	外)10YR6/6-7.5YR5/4 明黄褐～にぶい褐色 内)7.5YR3/1 黑褐	篠原式(新～)
24	四	1地区SX01③	深鉢		(7.0)		やや粗 大粒のクサリレキ含む	良	外)7.5YR6/6-4/2 橙～灰褐色 内)7.5YR6/6 橙	篠原式(新～)
25	四	1地区SX01③	深鉢		(6.3)		密 ～2mm長石・石英含む	良	外)10YR6/6-5/3 明黄褐色～にぶい黄褐 内)10YR6/6 明黄褐	篠原式(新～)
26	五	1地区SX01東拡張	深鉢	30.9	(4.7)		やや粗 長石・クサリレキ多く含む	良好	外)10YR6/4-4/4 にぶい黄橙～褐色 内)10YR6/3-4/1 にぶい黄橙～褐灰	篠原式(中～) 二枚貝条痕
27	五	1地区SX01③	深鉢		(5.6)		やや粗 大粒のクサリレキ・雲母細粒含む	良好	外)7.5YR5/3-10YR6/6 にぶい褐色～明黄褐色 内)10YR5/1 褐灰	篠原式(中～)
28	五	1地区SX01土器溜り	深鉢		(2.7)		密 クサリレキ含む	良好	外)10YR4/1-5/4 褐灰～にぶい黄褐 内)10YR4/1 褐灰 胎)7.5YR6/6 橙	篠原式(中～)
29	五	1地区SX01アゼ内	浅鉢	(21.4)	(6.1)		やや粗 5mmの小石、黒色粒・金色粒・砂粒多い	やや良	外)7.5YR4/6 褐色 内)10YR4/4 褐色	篠原式(新) 生駒西麓産
30	五	1地区SX01	浅鉢		(1.5)		密 長石含む	良好	外)5YR7/6 橙 内)5YR4/1 褐灰	篠原式(新)
31	五	1地区SX01	浅鉢				密 長石含む	良好	外)10YR4/2-6/6 灰黄褐色～にぶい黄橙 内)10YR4/2-4/1 灰黄褐～褐灰色	篠原式(新)

付表2 出出土器観察表1

番号	図版番号	遺構	器形	法量			胎土	焼成	色調	備考
				口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)				
32	五	1地区SX01	浅鉢	27.4	(9.3)		やや粗 雲母・長石・大粒の小石含む	良好	外)10YR4/4-3/1 褐色～黒褐色 内)10YR3/1 黒褐色	篠原式
33	五	1地区SX01③			(2.6)	4.1	密 長石含む	良	外)5YR4/6 赤褐色 内)5YR4/2-3/1 灰褐色～黒褐	
34	五	1地区SX01東拡張	浅鉢?				やや粗 5mm以下の石粒を多く含む	やや良	外)7.5YR4/6 褐色 内)5Y4/1 灰色	
35	五	1地区SX01東拡張					やや粗 3mm以下の小石を多く含む	やや良	外)10YR7/4-5YR6/6 にぶい黄橙～橙 内)10YR5/1 褐灰	
36	五	1地区SX01東拡張			(3.0)	(4.1)	4mm以下の褐色チップ、砂粒を多く含む	やや良	外)7.5YR7/6 橙 内)10YR4/1 褐灰	
37	五	1地区SX01					やや粗 長石・雲母細粒含む	良好	外)10YR6/4 にぶい黄橙 内)10YR4/1 褐灰	
38	五	1地区SX01東拡張		15.6	(1.9)		やや粗 ～1mm金雲母含む	良好	外)7.5YR4/6 褐色 内)10YR3/1 黒褐	
83	六	3地区 P35	深鉢	(38.7)	(8.4)		やや密 6mmの茶色粒・砂粒を含む	やや良	外)10YR8/1 灰白 内)10YR7/4 にぶい橙	篠原式(古) 二枚貝条痕
84	六	3地区第2遺構直上層(黒色土層)	深鉢	34.0	(7.5)		密 雲母・長石・クサリレキ含む	良好	外)5YR7/6-5/4 橙～にぶい赤褐 内)10YR4/1 褐灰	篠原式(古) 二枚貝条痕
85	六	3地区SX03一段下げ	深鉢		(3.9)		密 黒・赤・金少し、砂粒を含む	良	外)7.5YR5/2 灰褐 内)10YR3/1 黒褐	篠原式(古) 二枚貝条痕
86	六	3地区SX03周辺	深鉢		(3.5)		密 1mm以下の砂粒含む	やや良	外)10YR8/1 灰白 内)10YR5/1 褐灰	篠原式(古) 二枚貝条痕
87	六	3地区SX03③	深鉢		(6.9)		やや粗 長石・雲母含む	良	外)10YR5/2-7/6 灰黄褐～明黄褐 内)10YR5/2-6/4 灰黄褐～にぶい黄橙	篠原式(新)
88	六	3地区SX03②、アゼ	深鉢	(26.6)	(7.9)		やや密 2mm以下の長石を多く含む	やや良	外)10YR7/4-3/2 にぶい黄橙～黒褐 内)10YR4/1 褐灰	篠原式(新)
89	六	3地区SX03①	深鉢	(35.2)	(8.7)		やや密 砂粒多い、赤色粒少し含む	良	外)10YR5/3-6/4 にぶい黄褐～にぶい黄橙 内)N4/0 灰	篠原式(新)
90	六	3地区 P23	深鉢	(26.2)	(13.0)		やや密 3mm以下の石粒、7mmの赤色粒か石？を多く含む	やや良	外)5YR7/6-5/1 橙～褐灰 内)10YR5/3 にぶい黄褐	篠原式(新)
91	六	3地区SX03一段下げ	深鉢		(6.7)		やや密 5mmの長石・4mmのクサリレキ含む	やや良	外)7.5YR8/4-4/2 浅黄橙～灰褐 内)10YR7/1-3/1 灰白～黒褐 胎)10YR3/2 黒褐	篠原式(新)
92	六	3地区SX03③	深鉢		(8.3)		密 長石・石英含む	良好	外)10YR6/6-6/1 明黄褐～褐灰 内)10YR5/2 灰黄褐	篠原式(新)
93	六	3地区 P22	深鉢	(27.0)	(5.6)		やや密 3mm以下の石粒を含む	良	外)7.5YR4/3 褐色 内)7.5YR4/3 黒色	
94	六	3地区SX03①	深鉢	(25.0)	(5.9)		密 1mm以下の細かい砂粒を多く含む	やや良	外)10YR4/3 にぶい黄褐 内)10YR3/3 暗褐	篠原式(新)
95	六	3地区SX03①	深鉢	(19.0)	(4.8)		やや密 4mm以下の石粒を多く含む	良	外)7.5YR4/6-10YR6/4-2.5YR4/2 褐色～にぶい黄橙～暗灰黄 内)10YR5/4-2.5Y5/3 にぶい黄褐～黄褐	篠原式(新)
96	六	3地区第2遺構直上層(黒色土層)	深鉢	21.6	(3.7)		粗 長石・石英含む	良	外)10YR4/3-7/6 にぶい黄褐～明黄褐 内)10YR3/3 暗褐	篠原式
97	六	3地区SX03①	深鉢		(4.7)		粗 金雲母・クサリレキ少し、3mm石粒を多く含む	やや不良	外)10YR7/3-4/1 にぶい黄橙～褐灰 内)10YR7/3-4/1 にぶい黄橙～褐灰 胎)10YR5/2 灰黄褐	篠原式(新)
98	六	3地区SX03④	深鉢		(3.6)		やや粗 8mmのクサリレキ、砂粒多い	良	外)10YR7/3 にぶい黄橙 内)10YR2/1 黒	篠原式(新)
99	六	3地区SX03④	深鉢		(3.9)		やや密 砂粒多く、5mm以下のクサリレキ多く含む	良	外)5YR6/6 橙 内)2.5Y4/1-7/1 黄灰～灰白	篠原式(新)
100	六	3地区SX03③	深鉢		(4.9)		密 長石・石英含む	良好	外)10YR5/3 にぶい黄褐 内)10YR4/1-6/4 褐灰～にぶい黄橙	篠原式(新)
101	六	3地区SX03①②③	深鉢		(7.4)		密 クサリレキ・雲母少量含む	良好	外)7.5YR4/1 褐灰 内)10YR4/1 褐灰	篠原式(新)
102	六	3地区 P35	深鉢		(4.3)		密 長石含む	良好	外)10YR3/1-7/6 黒褐色～明黄褐 内)10YR3/1 黑褐色	
103	六	3地区 P35	深鉢	(22.2)	(6.9)		密 4mm以下の赤色粒、1mm以下 の長石を含む	良	外)5YR7/6 橙 内)10YR7/3 にぶい橙	
104	六	3地区SX03③	深鉢		(4.4)		やや密 5mmの石粒、5mm以下の赤色粒を含む	良	外)10YR7/2 にぶい黄橙 内)10YR7/3 にぶい黄橙 胎)5YR7/6 橙	篠原式(新)
105	六	3地区 P35	深鉢		(2.2)		やや粗 長石・雲母・クサリレキ含む	良	外)10YR6/3 にぶい黄橙 内)10YR5/3 にぶい黄褐	
106	六	3地区SX03①	鉢				8mm以下の大きな赤色粒子 が多く、砂粒を含む	良	外)10YR6/1 褐灰 内)10YR8/4 浅黄橙	篠原式(新)
107	六	3地区SX03①	鉢				密 赤色粒があり、砂粒を含む	良	外)7.5YR5/2 灰褐 内)10YR4/1 褐灰	篠原式(新)

付表3 出土土器観察表2

番号	図版番号	遺構	器形	法量			胎土	焼成	色調	備考
				口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)				
108	五	3地区SX03①	浅鉢				やや密 砂粒多い、4mmの石粒を含む	やや良	外)10YR6/1 褐灰 内)10YR3/1 黒褐 胎)10YR8/2 灰白	篠原式(新)
109	五	3地区第2遺構直上層(黒色土層)	浅鉢				密 2mm以下の長石・赤色粒、1mm以下の石英、石粒を多く含む	良	外)10YR4/2 灰黄褐 内)5YR6/6-7.5YR4/3 橙～褐色	篠原式(新)・二枚貝条痕
110	五	3地区SX03①	浅鉢	(3.5)			やや密 4mm以下の赤色粒(茶)・砂粒を含む	良	外)10YR6/1 褐灰 内)2.5Y4/2 暗灰褐 胎)2.5Y8/1 灰白	篠原式(新)
111	五	3地区SX03④	浅鉢	(2.7)			密 3mm以下の赤色粒、砂粒少ない	やや良	外)10YR5/2 灰黄褐 内)10YR3/1 黑褐 胎)10YR8/4 浅黄橙	篠原式(新)
112	五	3地区SX03周辺	浅鉢		(3.0)		密 砂粒を多く含む	やや良	外)7.5YR7/4 黒褐 内)10YR4/2 灰黄褐	篠原式(新)
113	五	3地区SX03①	浅鉢		(3.7)		密 赤色粒があり、砂粒を多く含む	良	外)10YR4/2-4/3 灰黄褐～にぶい黄褐 内)10YR4/2-4/3 灰黄褐～にぶい黄褐	篠原式(新)
114	五	3地区SX03①	浅鉢	(43.0)	(7.3)		やや密 4mmの長石、金色粒・砂粒を多く含む	やや良	外)10YR4/1 褐灰 内)10YR3/1 黑褐 胎)10YR8/6-8/2 黄橙～灰白	篠原式(新)
115	五	3地区SX03①	浅鉢				密 2mm以下の砂粒が多く、赤色粒を少し含む	やや良	外)10YR4/3 にぶい黄褐 内)10YR5/1 灰褐	篠原式(新)
116	五	3地区 P35	浅鉢		(2.8)		密 雲母細粒含む	良好	外)10YR5/4 にぶい黄褐色 内)10Y4/2 灰黄褐色	
117	五	3地区 P35	浅鉢		(3.7)		密 1mm以下の砂粒、赤色粒を含む	良	外)10YR5/3-7.5YR4/2 にぶい黄褐～灰褐 内)10YR3/1 黑褐	篠原式(新)
118	五	3地区 P35	鉢		(4.7)	(4.4)	やや密 1mm以下の石英・砂粒を多く含む	良	外)7.5YR4/1-7/6 褐灰～橙 内)7.5YR2/1 黒	
119	五	1・3地区 精査	鉢		(1.8)	4.6	やや密 砂粒を多く含む	やや良	外)10YR7/6 明黄褐 内)10YR7/8 黄橙	
120	五	3地区SX03①	鉢		(2.6)	4.0	やや粗5mm以下の石粒、砂粒を多く含む	やや良	外)10YR4/3-7/6-2.5YR5/8 にぶい黄褐～明黄褐～明赤褐 内)7.5YR3/2 黒褐	
121	五	3地区 P35	鉢		(3.5)	8.0	やや粗 石英・大粒のクサリレキ含む	良	外)10YR6/6-5/4 明黄褐色～にぶい黄褐色 内)10YR3/1 黑褐色	
122	五	3地区SX03①②③	鉢		(2.75)	(3.0)	粗 8mmの赤色粒、砂粒を多く含む	良	外)10YR8/6 黄橙 内)10YR7/4-7/6 にぶい黄橙～橙	
123	五	3地区SX03③	鉢		(2.9)	(4.0)	粗 6mmのチャート・赤色粒を多く含む	良	外)10YR8/2 灰白 内)5YR7/6 橙	
124	五	3地区 P35	鉢		(3.45)	(3.2)	やや密 砂粒を多く含む	良	外)7.5YR6/6 橙 内)10YR4/1 褐灰	
125	五	3地区SX03④	浅鉢?		(3.4)	(3.2)	やや粗 4mm以下の石粒・金色・赤色粒少し、砂粒を多く含む	良	外)7.5YR7/6 橙 内)7.5YR3/1 黑褐	
126	五	3地区 P35	鉢		(4.6)	9.0	やや粗 多量の長石・クサリレキ含む	良	外)10YR6/6-4/3 明黄褐色～にぶい黄褐 内)10YR4/1 褐灰色	

付表4 出土土器観察表3

挿図 番号	図版 番号	遺構	器形	法量				材質	備考
				長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重さ(g)		
39	七	1地区 SX01 土器溜り	石鏸	1.9	1.75	0.35	1.0	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
40	七	1地区 SX01④	石鏸	2.3	1.9	0.4	1.0	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
41	七	1地区 SX01 土器溜り	石鏸	2.15	1.65	0.4	1.0	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
42	七	1地区 SX01	石鏸	(1.75)	1.7	0.35	0.9	サヌカイト	金山? 凹基無茎式
43	七	1地区 SX01	石鏸	2.2	1.75	0.35	1.0	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
44	七	1地区 SX01 土器溜り	石鏸	2.05	1.25	0.3	1.0	サヌカイト	金山? 凹基無茎式
45	七	1地区 SX01①	石鏸	1.7	1.5	0.3	1.0	サヌカイト	金山 凹基無茎式
46	七	1地区 SX01 東拡張 一段下げ	石鏸	1.85	1.75	0.35	1.0	サヌカイト	金山 凹基無茎式
47	七	1地区 SX01③	石鏸	1.8	1.65	0.3	1.0	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
48	七	1地区 SX01	石鏸	1.95	1.6	0.35	1.0	サヌカイト	金山 凹基無茎式
49	七	1地区 SX01①	石鏸	1.8	1.95	0.4	1.0	サヌカイト	金山 凹基無茎式
50	七	1地区 SX01 精査	石鏸	2.0	1.65	0.25	1.0	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
51	七	1地区 SX01	石鏸	2.1	1.5	0.3	1.0	サヌカイト	金山 凹基無茎式
52	七	1地区 SX01③	石鏸	1.8	1.35	0.2	1.0	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
53	七	1地区 SX01③	石鏸	2.4	1.4	0.35	1.0	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
54	七	1地区 SX01	石鏸	2.65	1.65	0.3	1.0	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
55	七	1地区 SX01	石鏸	2.25	1.05	0.35	0.6	サヌカイト	二上山
56	七	1地区 SX01	石鏸	2.65	1.5	0.25	1.0	サヌカイト	金山 凹基無茎式
57	七	1地区 SX01	石錐	2.2	1.1	0.45	1.0	サヌカイト	二上山
58	七	1地区 SX01③	縦長剥片	(4.05)	1.65	0.7	5.2	サヌカイト	二上山
59	七	1地区 SX01	剥片	5.9	5.6	0.95	28.0	サヌカイト	二上山
60		1地区 SX01	剥片	4.7	4.2	1.6	23.0	サヌカイト	二上山
61		1地区 SX01 精査	剥片	2.0	1.4	0.35	1.0	サヌカイト	二上山
62	七	1地区 SX01 東拡張	石包丁か?	(4.2)	(7.5)	0.65	32.3	粘板岩	
63	七	1地区 SX01④	棒状石製品	10.2	2.5	2.2	79.0	凝灰岩?	
64	七	1地区 SX01	敲石	7.1	5.2	3.8	200.6	砂岩	
65	七	1地区 SX01	敲石	(5.9)	6.6	4.9	220.4	砂岩	
66	七	1地区 SX01周辺	台石	12.9	(6.7)	5.55	669.0	?	
67	八	1-3地区 精査	石鏸	2.2	1.9	0.3	1.0	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
68	八	1地区 南精査	石鏸	2.7	1.4	0.35	1.0	サヌカイト	金山? 凹基無茎式
69	八	1・3地区 精査	削器	(3.75)	(6.45)	1.0	22.6	サヌカイト	サイドスクレイパー
70	八	1地区 精査	剥片	2.9	2.1	0.55	3.0	サヌカイト	二上山
71	八	1地区 精査	剥片	2.85	1.8	0.8	3.0	サヌカイト	二上山
72	八	1地区 精査	剥片	2.0	3.35	0.8	5.0	サヌカイト	二上山
73	八	1地区 精査	剥片	2.7	2.1	0.7	4.0	サヌカイト	二上山
74	八	1地区 精査	剥片	1.5	1.6	0.2	1.0	サヌカイト	二上山
75	八	1地区 精査	剥片	2.0	1.25	0.2	1.0	サヌカイト	二上山
76	八	1地区 精査	剥片	2.0	3.2	0.6	5.0	サヌカイト	二上山

付表5 出土石器観察表1

挿図番号	図版番号	遺構	器形	法量				材質	備考
				長さ(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重さ(g)		
77	八	1地区 上げ土	石核	5.3	6.7	3.75	14.29	サヌカイト	二上山
78	八	1地区 東拡張土器溜り	台石か?	9.4	11.35	3.1	417.0	砂岩	
79	八	1地区 土器溜りアゼ	台石か?	9.4	10.2	2.8	381.0	砂岩	
80	八	1地区 第2遺構面直上層(黒色)	磨石	6.5	8.2	3.35	171.0	砂岩	
81	八	1地区 土器溜りアゼ	敲石	10.25	6.55	4.0	300.0	砂岩	
82	八	1地区 東拡土器溜り	台石	9.2	16.4	3.6	741.0	砂岩	
127	九	3地区 SX03④	石鏸	1.75	1.15	0.35	0.6	サヌカイト	金山? 凹基無茎式
128	九	3地区 SX03④	石鏸	2.05	1.3	0.35	0.8	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
129	九	3地区 SX03周辺	石鏸	2.2	1.85	0.4	1.0	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
130	九	3地区 SX03①	石鏸	2.1	1.65	0.4	1.1	サヌカイト	金山?
131	九	3地区 SX03周辺	石鏸	2.15	(1.7)	0.35	1.2	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
132	九	3地区 SX03③	石鏸	1.75	1.45	0.35	0.6	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
133	九	3地区 SX03①②③	石鏸	2.25	1.85	0.3	1.1	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
134	九	3地区 SX03周辺	石鏸	(2.0)	1.8	0.3	1.8	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
135	九	3地区 SX03①②③	石鏸	(1.8)	1.3	0.3	0.5	サヌカイト	金山
136	九	3地区 SX03周辺	石鏸	1.35	1.5	0.25	1.0	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
137	九	3地区 P35	石鏸	2.1	2.3	0.4	1.4	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
138	九	3地区 SX03	石鏸(未製品)	2.6	2.35	0.45	2.7	サヌカイト	二上山ではない珍しい石材
139	九	3地区 SX03③	石鏸	(2.15)	(1.55)	0.35	1.0	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
140	九	3地区 SX03④	石鏸	2.5	1.4	0.4	1.0	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
141	九	3地区 SX03④	石鏸	(1.75)	1.4	0.35	0.8	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
142	九	3地区 SX03①②③	石鏸未製品	2.6	2.3	0.6	2.7	サヌカイト	二上山 凹基無茎式
143	九	3地区 P35	石鏸	2.55	1.5	0.55	1.0	サヌカイト	金山 平基無茎式
144	九	3地区 P35	剥片(使用痕あり)	3.3	2.2	0.8	4.0	サヌカイト	二上山
145	九	3地区 P35	剥片(使用痕あり)	3.0	1.95	0.4	2.0	サヌカイト	二上山
146	九	3地区 P35	剥片	2.5	1.35	0.85	2.0	サヌカイト	二上山
147	九	3地区 P35	剥片	1.9	3.8	0.4	3.0	サヌカイト	二上山
148	九	3地区 P35	剥片	2.3	3.2	0.4	3.0	サヌカイト	二上山
149	九	3地区 P35	剥片	1.4	4.0	0.4	2.0	サヌカイト	二上山
150	九	3地区 P35	剥片	1.95	1.9	0.3	2.0	サヌカイト	二上山
151	九	3地区 P35	剥片	4.9	2.8	0.65	6.0	サヌカイト	二上山
152	九	3地区 P35	石針?	1.8	0.3	0.2	0.2	不明	
153	3地区	SX03②	石包丁か?	(2.8)	(5.4)	0.7	11.2	粘板岩	外湾刀
154	九	3地区 SX03④	敲石	5.3	6.7	2.4	110.0	砂岩	
155	九	3地区 P23	敲石	10.4	6.8	5.8	534.0	砂岩	
156	九	3地区 SX03周辺	台石	16.0	9.05	6.1	1335.0	?	
157		3地区 第2遺構面直上層(黒色土層)	敲石	10.3	3.4	1.0	47.0	粘板岩?	
158	九	3地区 SX03①	敲石	9.9	8.55	5.4	621.5	砂岩	(二次)焼成受ける

付表6 出土石器観察表2

図 版

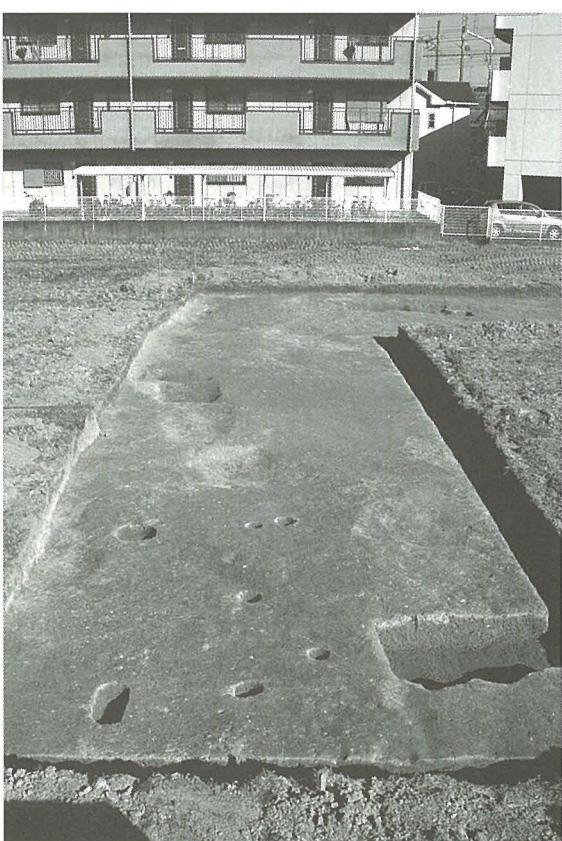
図版一
1地区・2地区・3地区・4地区全景



1地区全景（北から）



2地区全景（南から）



3地区全景（東から）



4地区全景（西から）

図版二 S I 01完掘状況・S X 01検出状況・S X 01完掘状況



S I 01完掘状況（東から）



S X 01検出状況

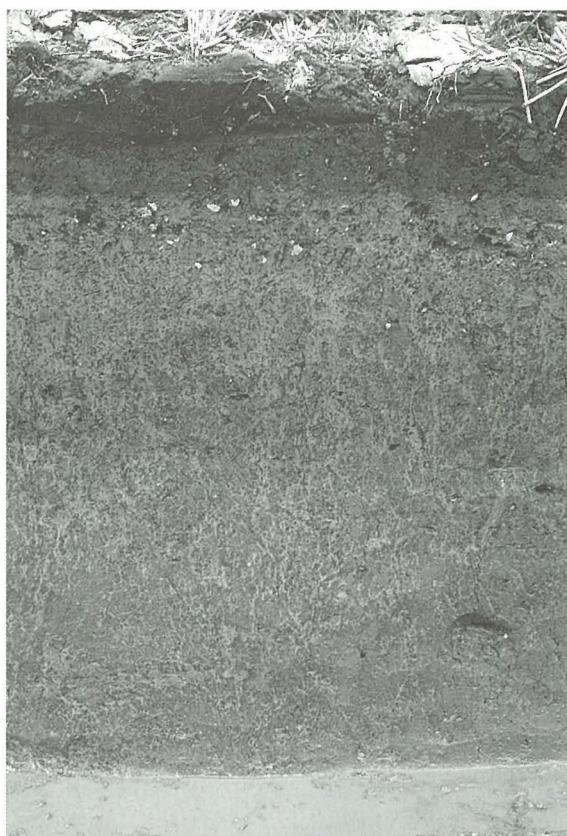


S X 01完掘状況

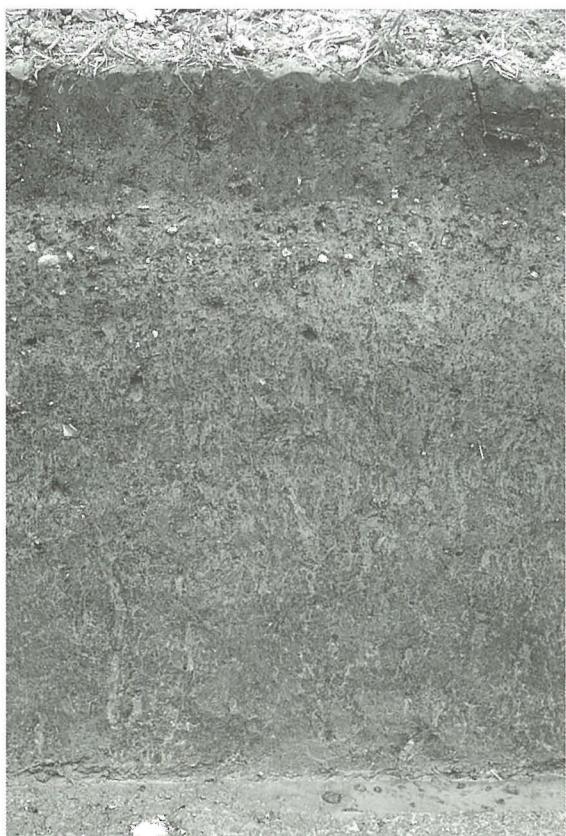
図版三 1 地区西壁・2 地区西壁・3 地区南壁・4 地区北壁



1 地区西壁



2 地区西壁

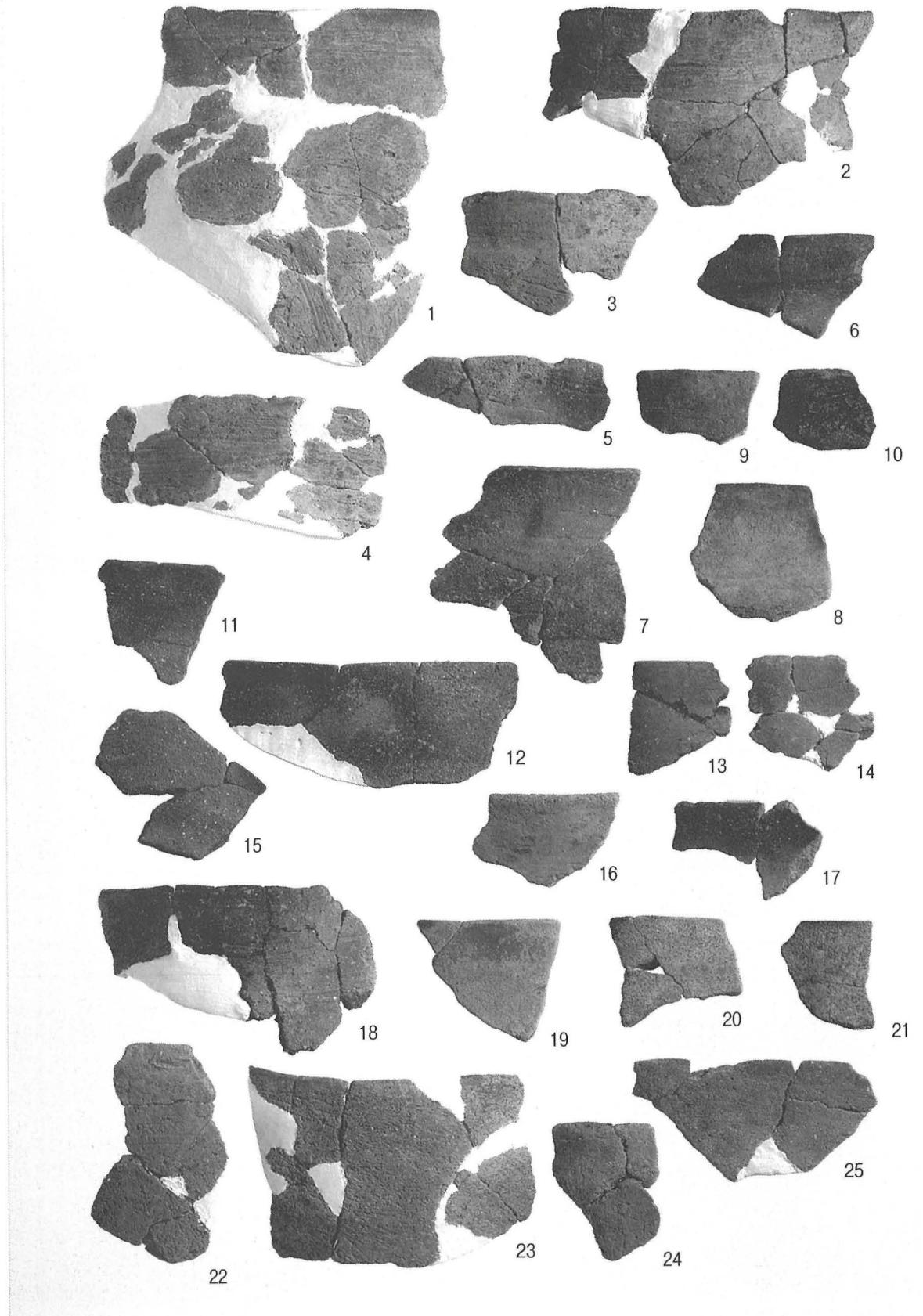


3 地区南壁

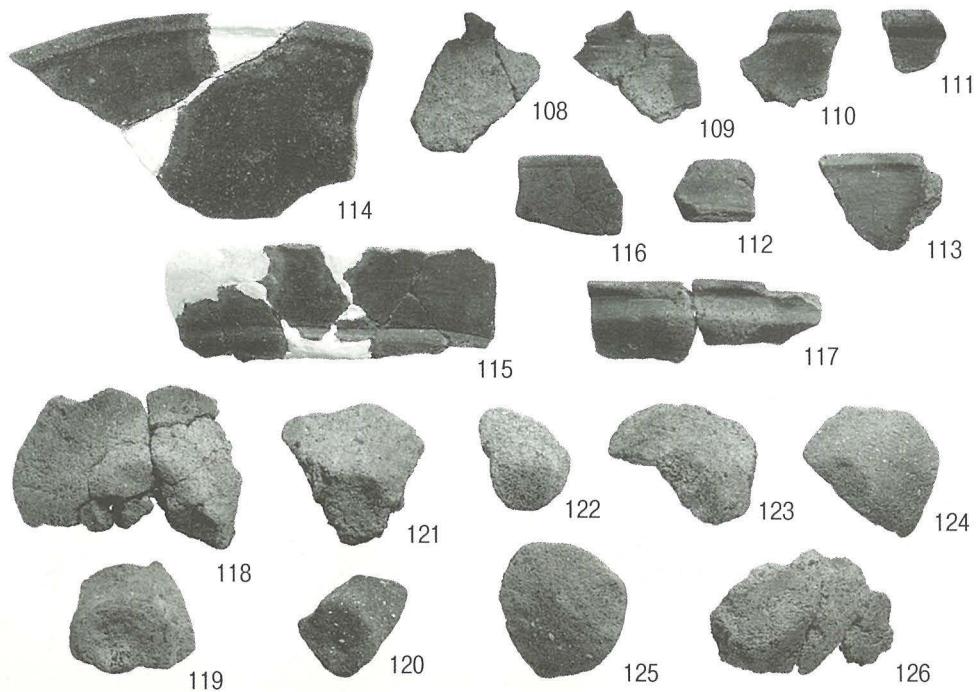
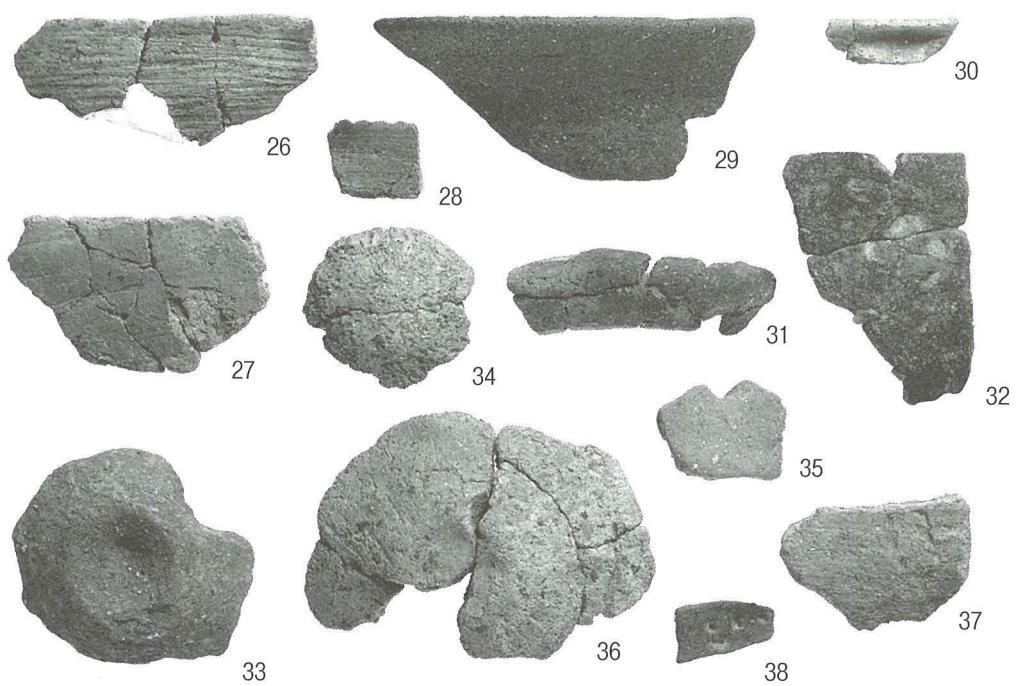


4 地区北壁

図版四 出土遺物一

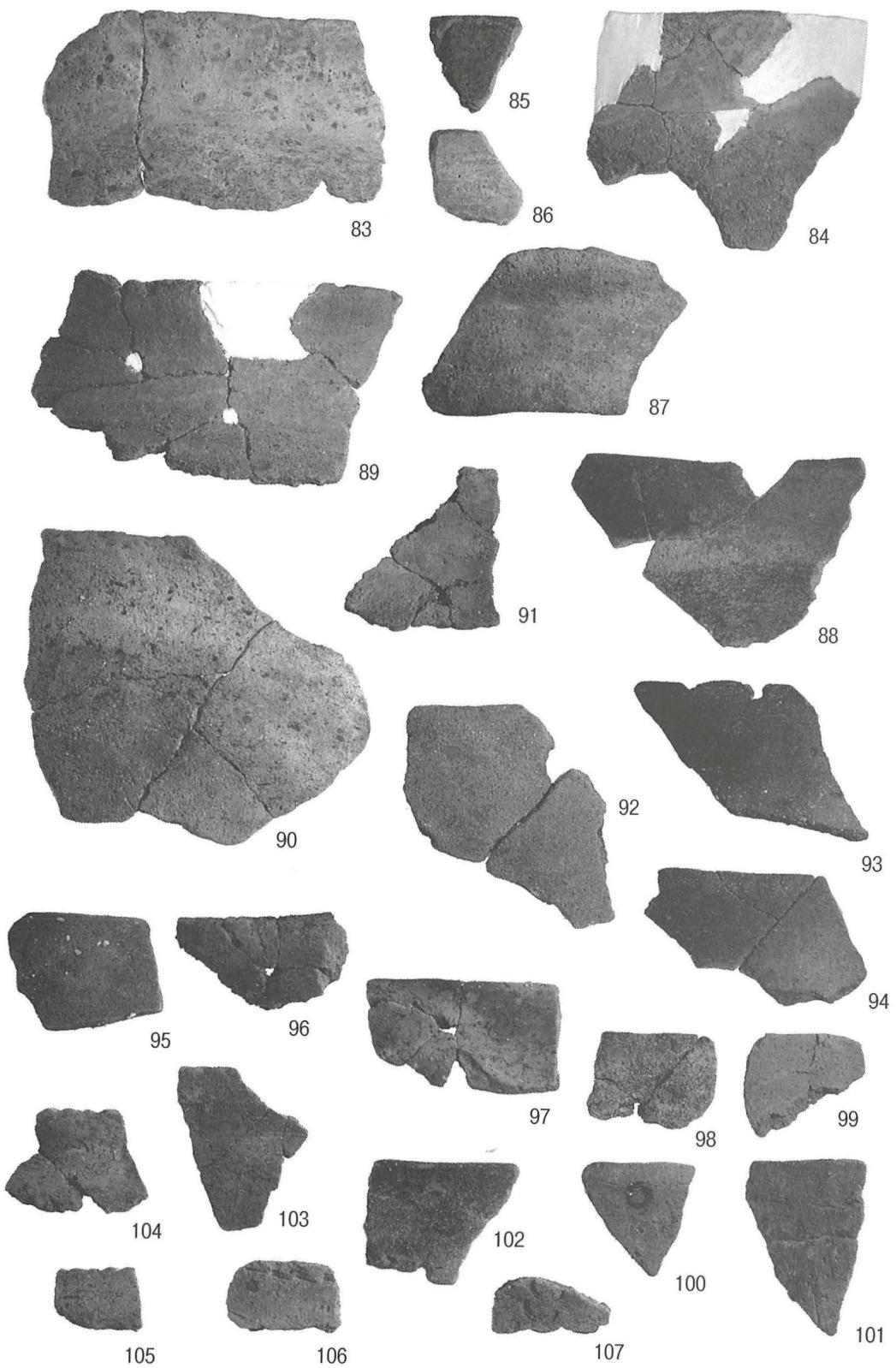


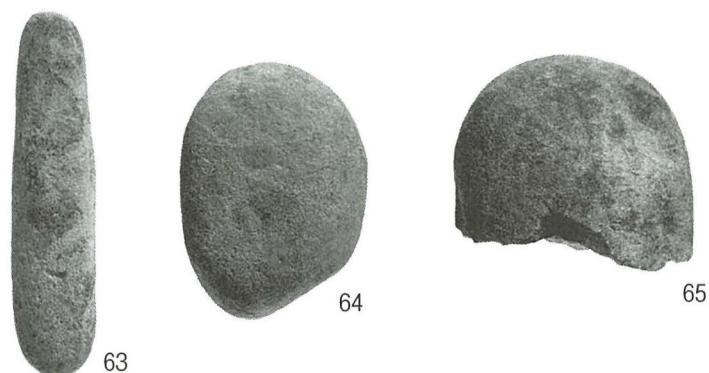
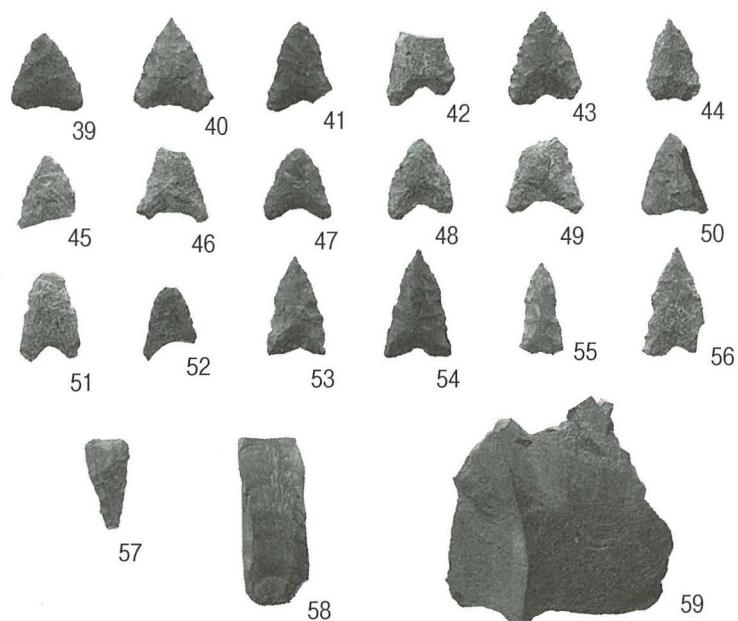
図版五 出土遺物二

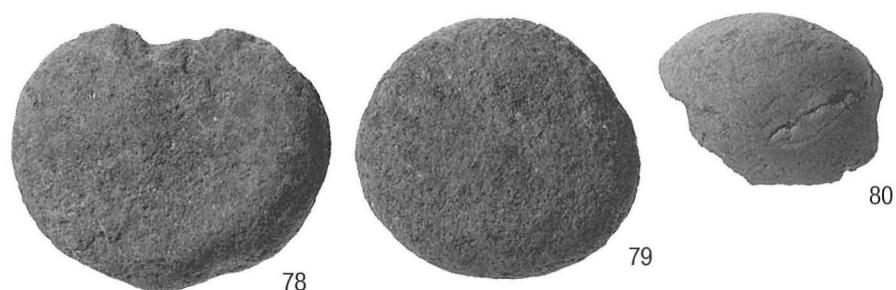
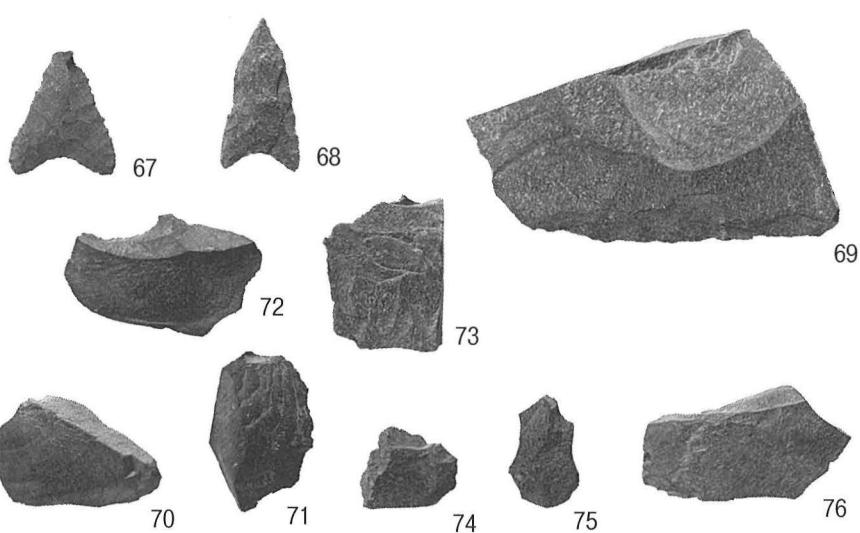


図版六

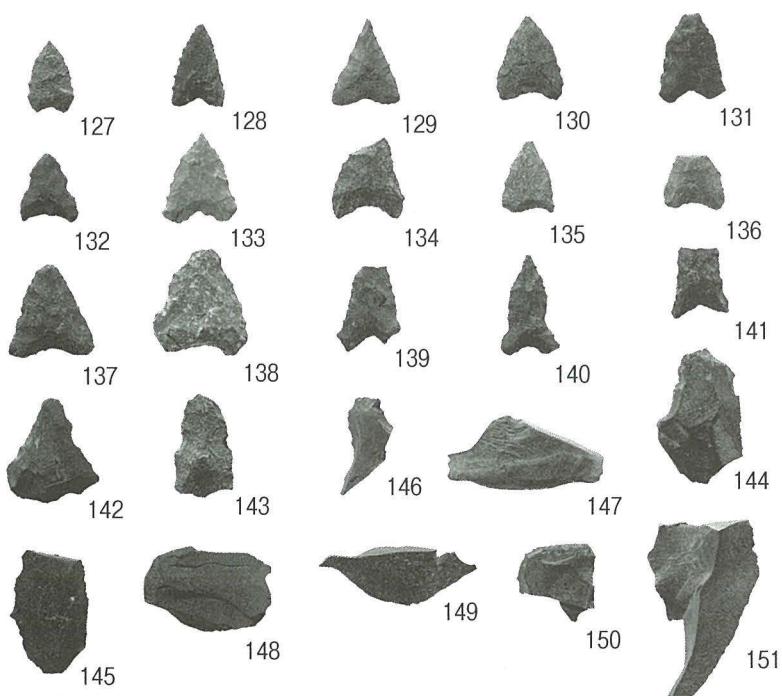
出土遺物三







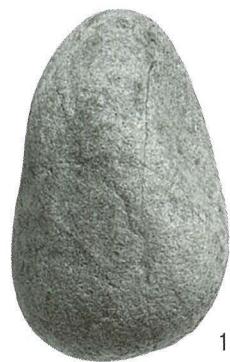
図版九 出土遺物六



154



152



155



156



158



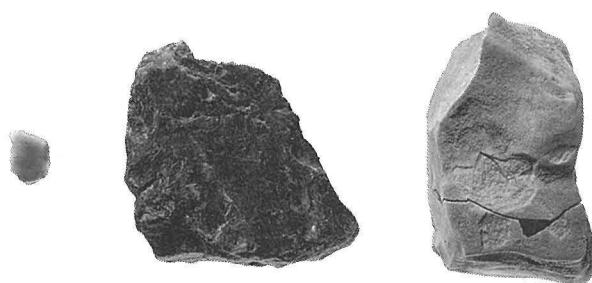
大量の剥片



結晶片岩（左3点） 紅簾石結晶片岩（右1点）



粘板岩（搬入石材）



チャート（左2点） グレーチャート（右1点）

報告書抄録

ふりがな	しまもとちょうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	島本町文化財調査報告書
副書名	広瀬遺跡発掘調査概要報告
巻次	
シリーズ名	島本町文化財調査報告書
シリーズ番号	第28集
編著者名	木村 友紀、坂根 瞬、大野 薫
編集機関	島本町教育委員会事務局 教育こども部 生涯学習課
所在地	〒618-8570 大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号 TEL.075-961-5151
発行年月日	平成27年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
遺跡範囲								
ひろせいせき 広瀬遺跡	しまもとちょうひろせ 島本町広瀬三丁目 444番1、445番1、 446番1、447番1、 448番6	27301		34° 88' 30"	135° 67' 24"	2013.3.4 ～ 2013.4.5	777.9 m ²	宅地造成工事 に伴う緊急遺 跡範囲確認調 査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
広瀬遺跡	集落	縄文	竪穴式住居 石器工房跡	縄文土器、石器	縄文時代の竪穴式 住居跡と石器工房 跡を検出

島本町文化財調査報告書 第28集

発 行 島本町教育委員会
〒618-8570 大阪府三島郡島本町桜井二丁目1番1号
TEL 075-961-5151

発行日 平成27年3月31日

印 刷 三星商事印刷株式会社
〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル弁財天町300
TEL 075-256-0961

